

平成 26 年 度

県 政 世 論 調 査

結 果 報 告 書

〈概要版〉

平成 26 年 11 月

福 島 県

目次

I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査実施概要	1
3. 調査項目	1
4. 回答者の構成	2

II 調査結果の解説

1. 復興に関する情報発信について	5
(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報	5
(2) 復興が進んでいると感じる情報	6
(3) 復興状況に関する情報の入手先	7
(4) 県の広報活動の満足度	8
(5) 県外に発信すべき内容	10
2. 心の健康について	11
(1) 心の健康への関心の有無	11
(2) 精神的な疲労の認識	13
(3) 心の負担になっていること	15
(4) 心の健康についての相談先	17
(5) 利用したことのある相談機関	19
3. 食育について	21
(1) 『食育月間』『食育の日』の認知状況	21
(2) 『福島県食育応援企業団』について	22
(3) 『ふくしま食育実践サポーター』について	23
(4) 朝食または夕食を家族と一緒に食べる頻度	24
(5) 実践している活動や行動	25
(6) 実施して欲しい健康サービス	26
4. 農林水産業について	27
(1) 農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいこと	27
(2) 農山漁村の役割として期待すること	28
5. 廃棄物対策について	29
(1) 行政の取組として必要なこと	29
(2) 今後の県外の産業廃棄物の受け入れについて	30
(3) 近隣での廃棄物処理施設の設置計画について	31
(4) 廃棄物対策に対して県に望むこと	32

6. 地域社会の安全・安心（治安）について	33
(1) 現在の治安状況.....	33
(2) 治安状況が良いと思う理由.....	35
(3) 治安状況が悪いと思う理由.....	37
(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段.....	39
(5) 犯罪に関して知りたい情報.....	41
(6) 警察に強化してほしい活動.....	43
(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪.....	45
7. 安全で安心な県づくりについて	48
(1) 安全・安心の現状.....	48
8. 県総合計画について	50
(1) 福島県の現状.....	50

Ⅲ 調査票様式

Ⅳ 過去に実施した県政世論調査項目一覧

●本報告書利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。
したがって、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100％にならないことがある。また、複数回答の質問では、比率の合計は100％を超えることがある。
2. 図表中の「n」は回答者総数（該当者への質問の場合は該当者数）のことで、100％が何人に相当するかを示す、比率算出の基数である。

I 調査の概要

1. 調査の目的

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とする。

2. 調査実施概要

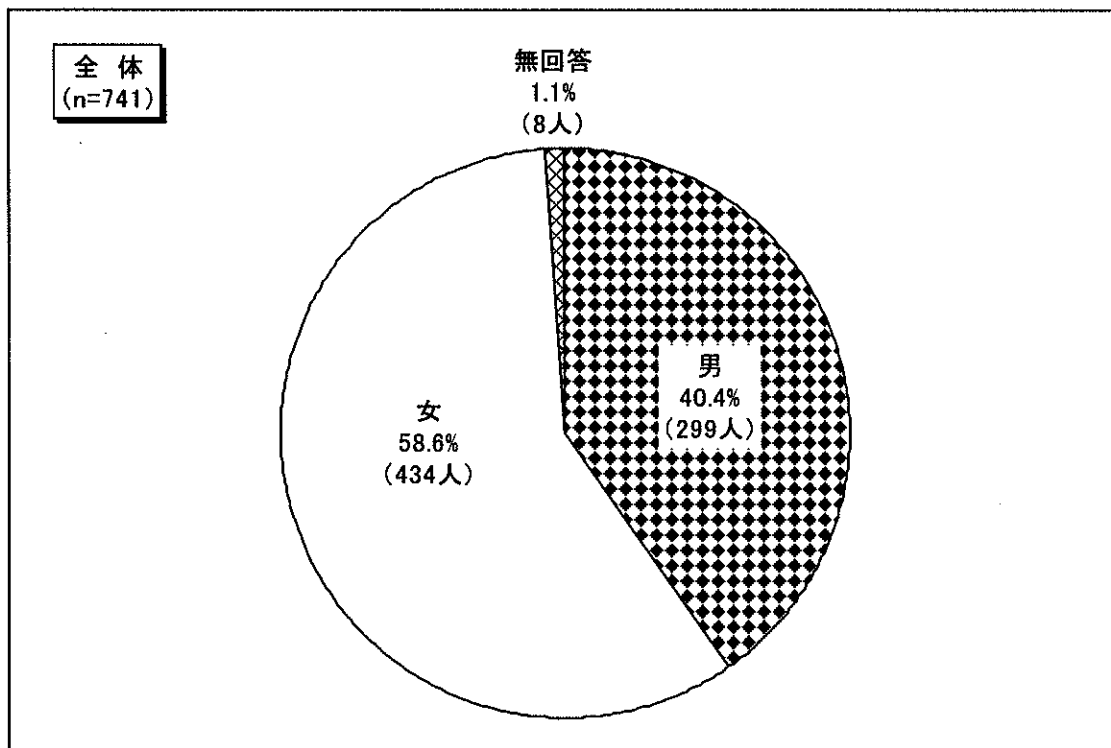
- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 福島県全域（28市町村を抽出） |
| (2) 調査対象 | 満15歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 1,300（人） |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出
第1次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部（町村）」の3グループに分け、各グループを1つの層とした。
各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。
第2次抽出：第1次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。 |
| (5) 調査方法 | 郵送調査（自記式アンケート） |
| (6) 調査期間 | 平成26年8月15日～8月29日 |
| (7) 回収結果 | 有効回収数741（回収率57.0%） |

3. 調査項目

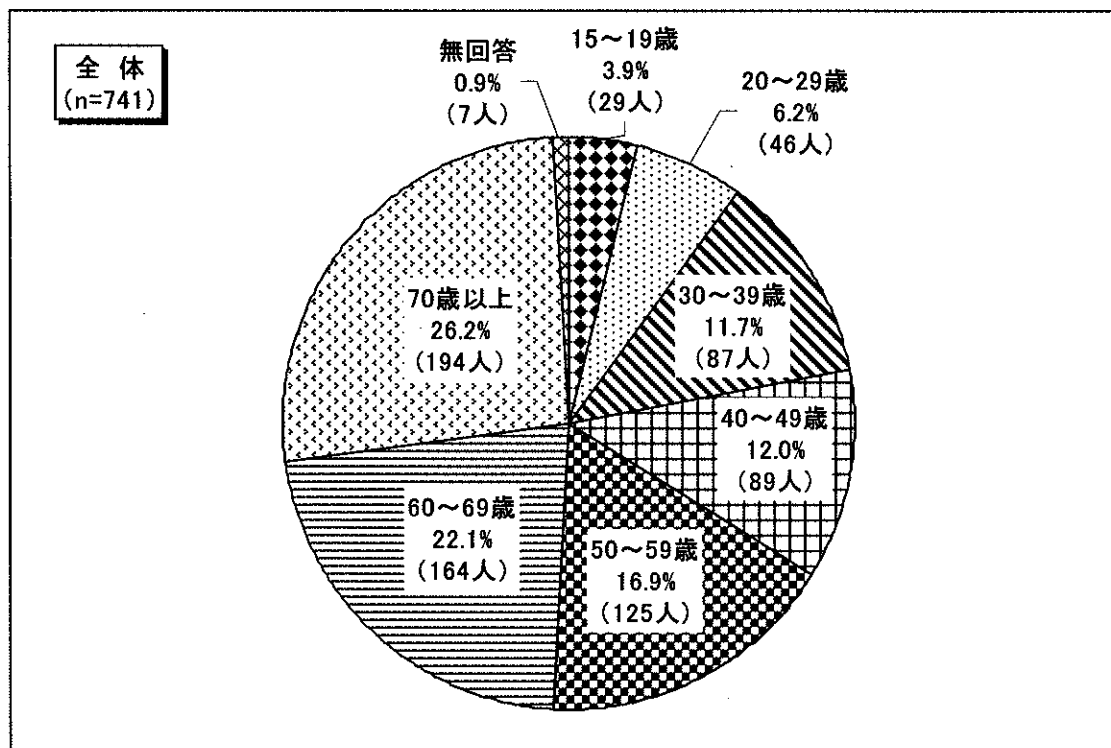
- (1) 『復興に関する情報発信』について
- (2) 『心の健康』について
- (3) 『食育』について
- (4) 『農林水産業』について
- (5) 『廃棄物対策』について
- (6) 『地域社会の安全・安心（治安）』について
- (7) 『安全で安心な県づくりについて』について
- (8) 『県総合計画』について

4. 回答者の構成

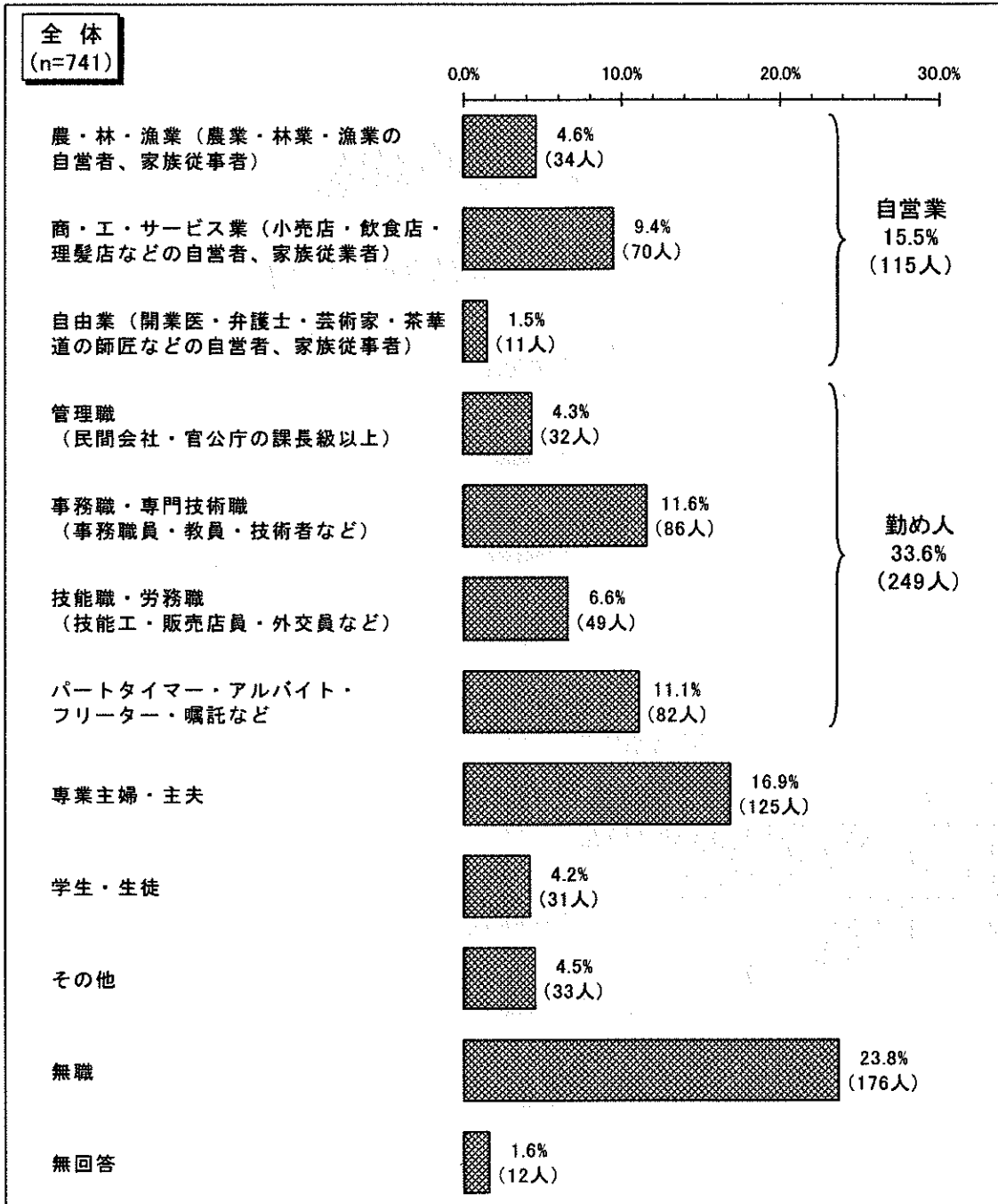
(1) 性別



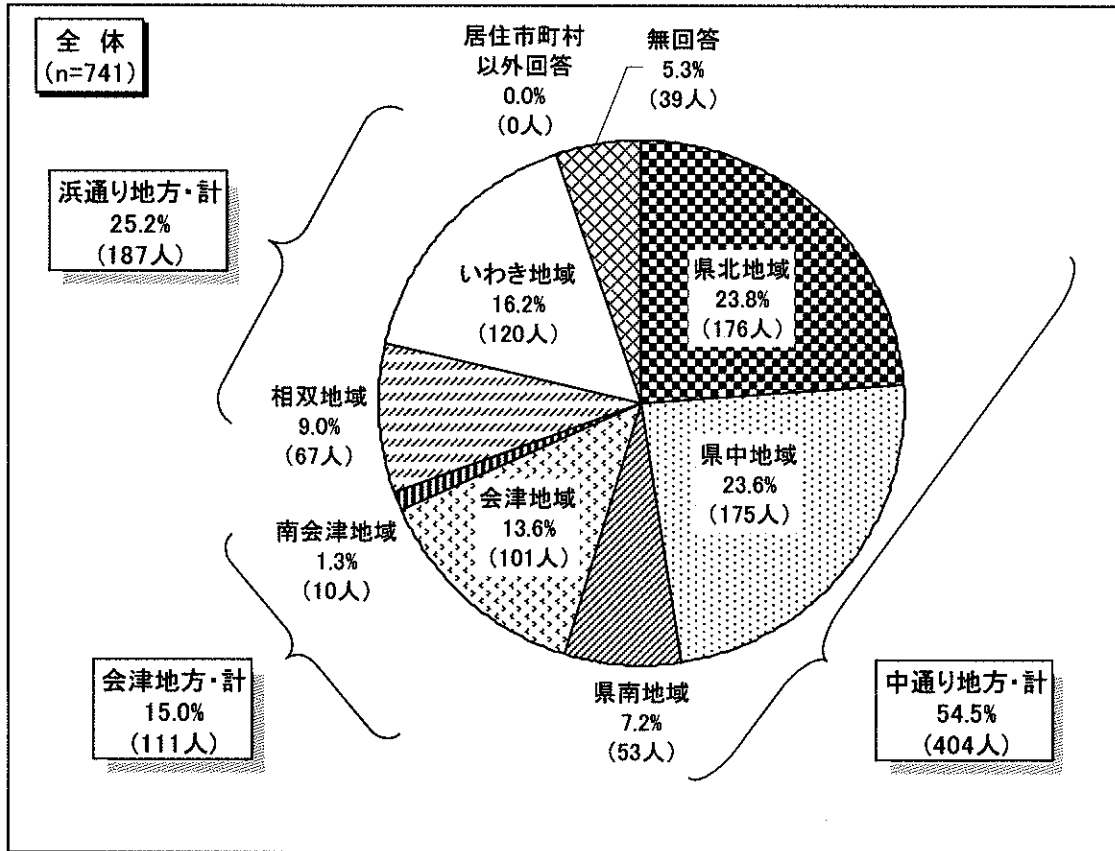
(2) 年齢



(3) 職業



(4) 居住地域



市町村別回答者数

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
中通り地方	県北地域	福島市	108	14.6
		二本松市	18	2.4
		伊達市	25	3.4
		本宮市	11	1.5
		国見町	8	1.1
		大玉村	6	0.8
		郡山市	109	14.7
	県中地域	須賀川市	23	3.1
		田村市	10	1.3
		石川町	11	1.5
		古殿町	10	1.3
		小野町	12	1.6
	県南地域	白河市	20	2.7
西郷村		13	1.8	
中島村		12	1.6	
棚倉町		8	1.1	

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
会津地方	会津地域	会津若松市	50	6.7
		喜多方市	20	2.7
		西会津町	13	1.8
		湯川村	7	0.9
		会津美里町	11	1.5
	A	南会津町	10	1.3
浜通り地方	相双地域	相馬市	23	3.1
		南相馬市	18	2.4
		広野町	10	1.3
		川内村	4	0.5
		浪江町	12	1.6
	B	いわき市	120	16.2
		居住市町村以外回答	0	0.0
		居住市町村別無回答	39	5.3
		全体	741	100.0

A 南会津地域

B いわき地域

※居住市町村は平成26年8月1日現在の住民基本台帳による

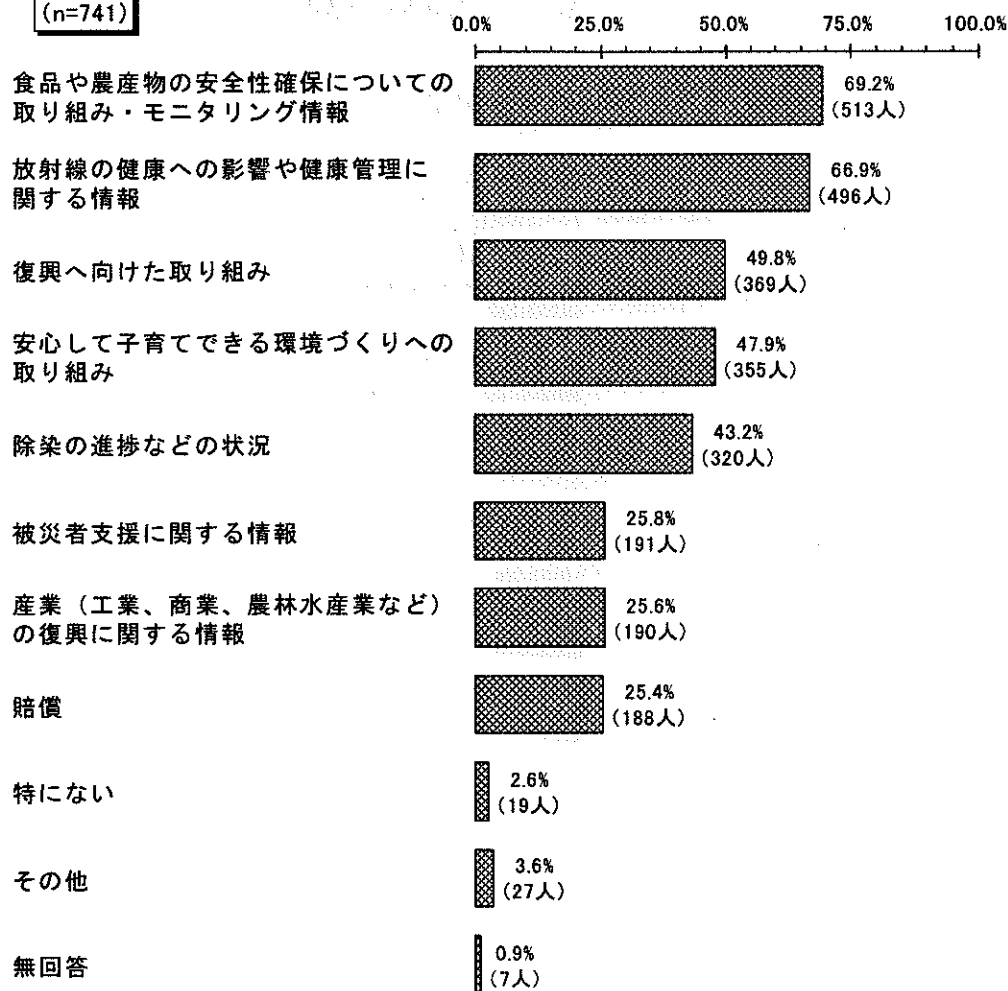
Ⅱ 調査結果の解説

1. 復興に関する情報発信について

(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報

問1 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。
 あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

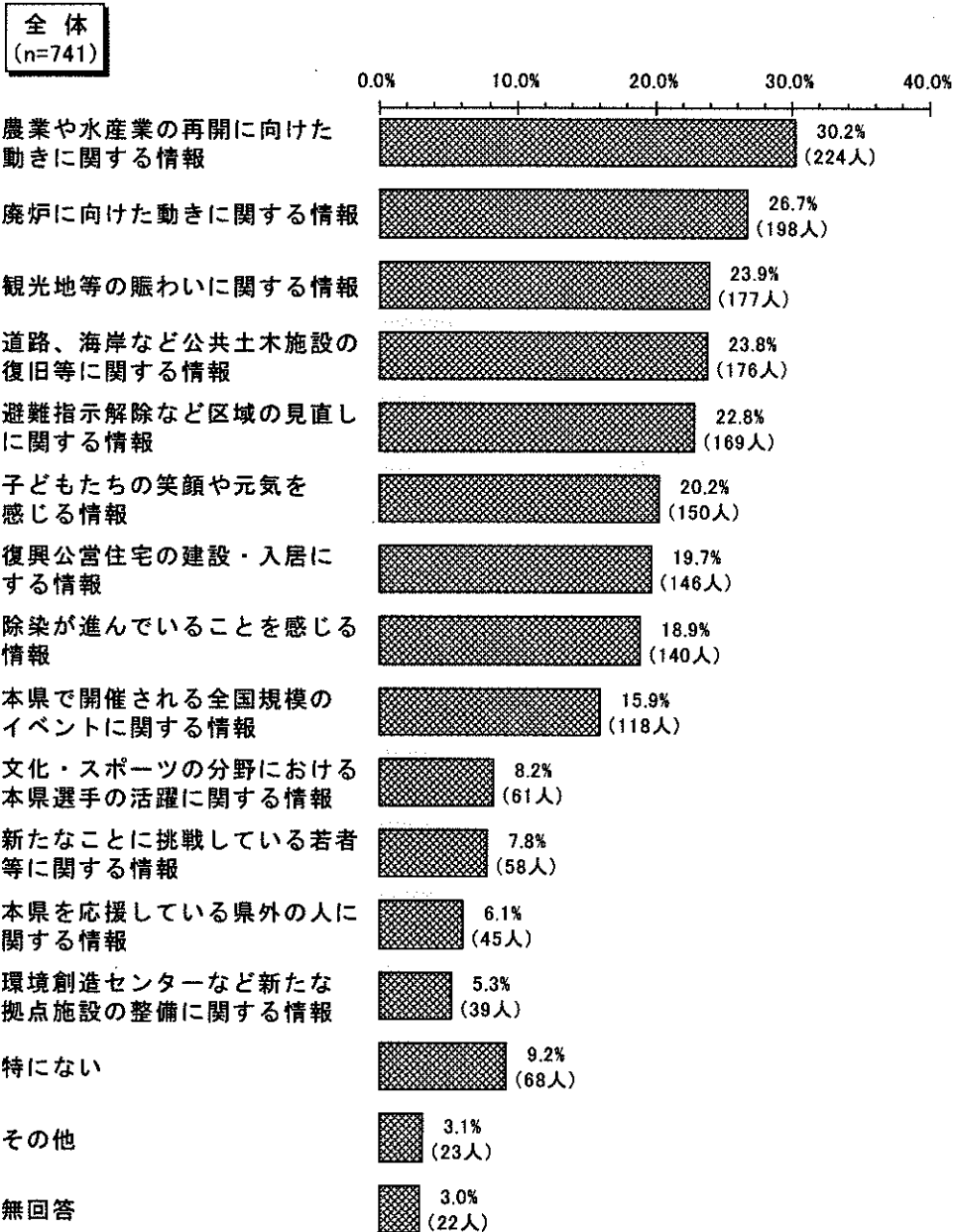
全体
 (n=741)



震災・原発事故や復興について知りたい情報は、「食品や農産物の安全性についての取り組み・モニタリング情報」(69.2%)が最も多く7割弱となっている。以下、「放射線の健康への影響や健康管理に関する情報」(66.9%)が6割台、「復興へ向けた取り組み」(49.8%)と「安心して子育てできる環境づくりへの取り組み」(47.9%)と「除染の進捗などの状況」(43.2%)が4割台で続いている。

(2) 復興が進んでいると感じる情報

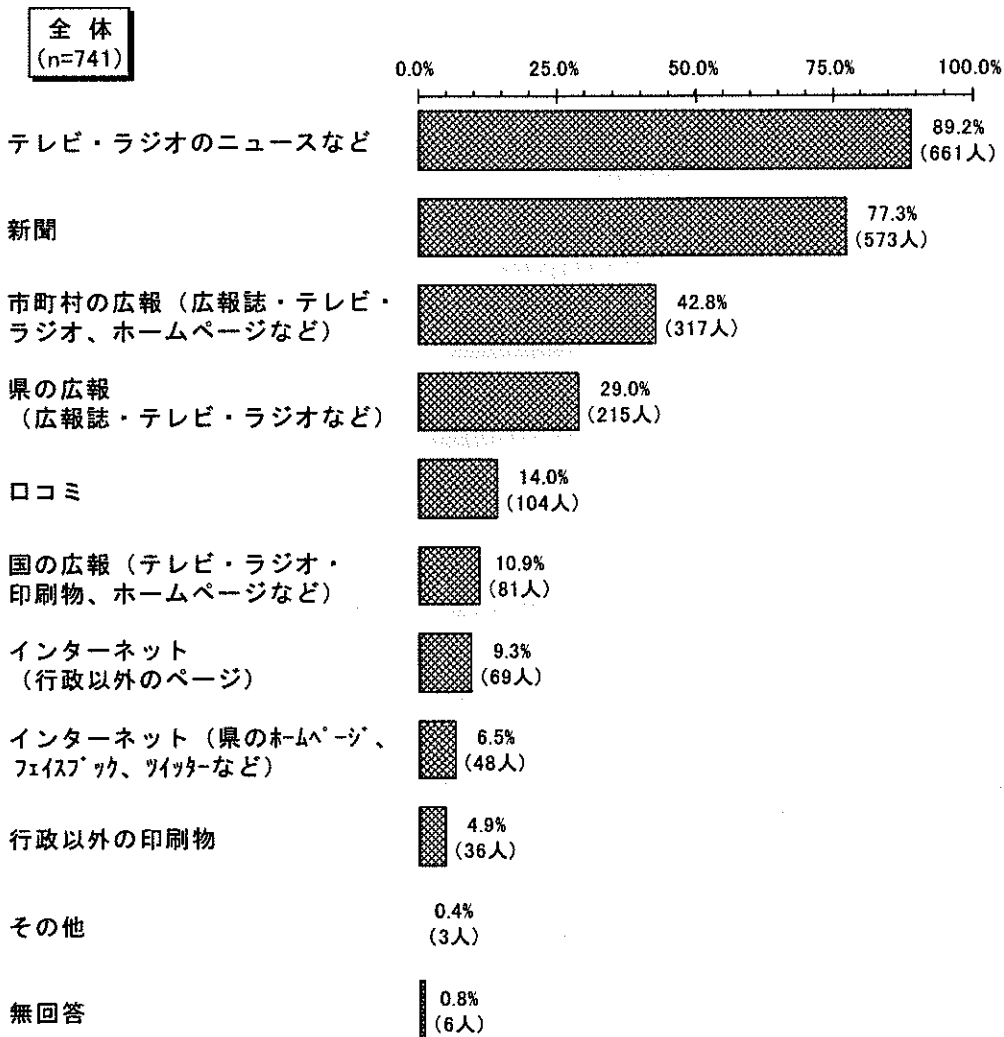
問2 復興が前に進んでいると感じるのは、どのような情報を得たときですか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



復興が進んでいると感じる情報としては、「農業や水産業の再開に向けた動きに関する情報」(30.2%)が最も多く、3割強となっている。以下、「廃炉に向けた動きに関する情報」(26.7%)、「観光地等の賑わいに関する情報」(23.9%)、「道路、海岸など公共土木施設の復旧等に関する情報」(23.8%)、「避難指示解除など区域の見直しに関する情報」(22.8%)、「子どもたちの笑顔や元気をを感じる情報」(20.2%)が2割台で続いている。

(3) 復興状況に関する情報の入手先

問3 本県の復興の状況に関する情報については主に何で入手していますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



復興の状況に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオのニュースなど」(89.2%)が最も多く、9割弱となっている。以下、「新聞」(77.3%)が7割台、「市町村の広報(広報誌・テレビ・ラジオ、ホームページなど)」(42.8%)が4割台、「県の広報(広報誌・テレビ・ラジオなど)」(29.0%)が2割台、「口コミ」(14.0%)と「国の広報(テレビ・ラジオ・印刷物、ホームページなど)」(10.9%)が1割台となっている。

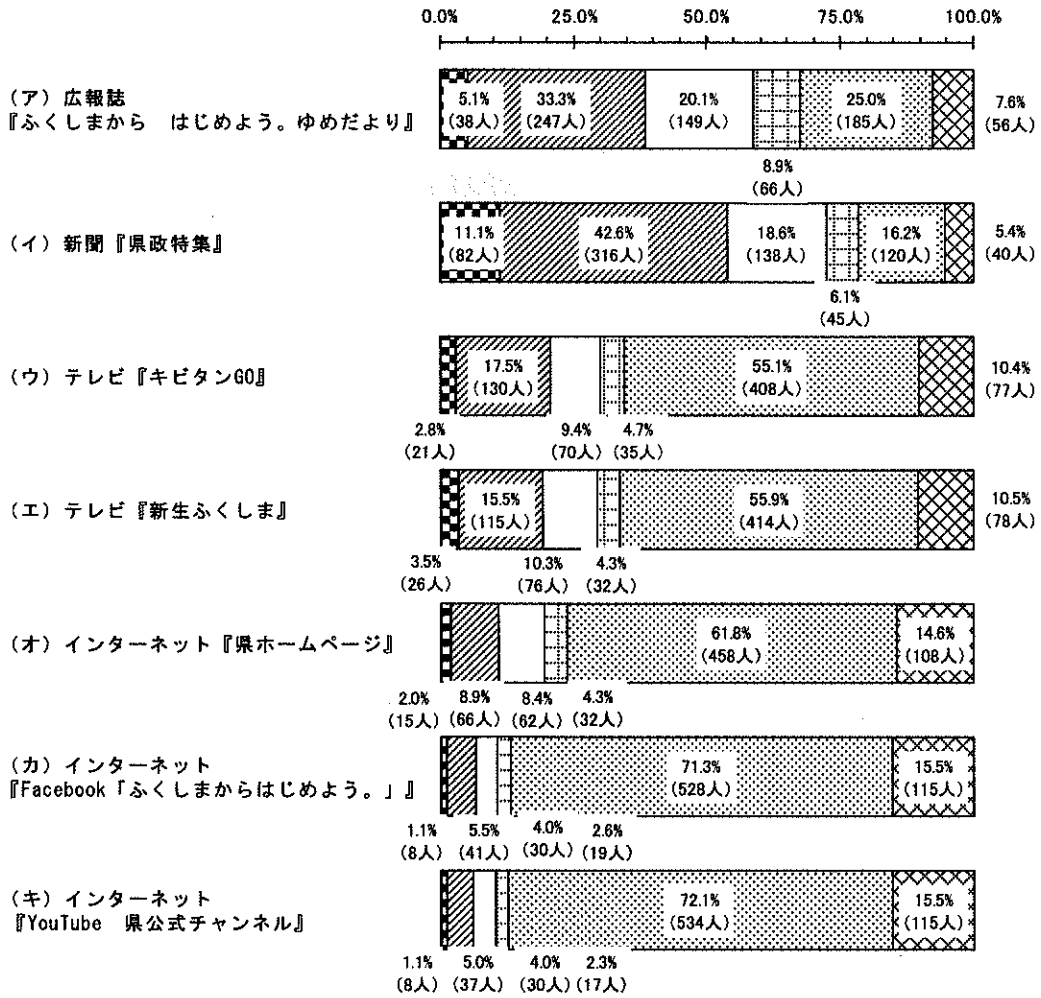
(4) 県の広報活動の満足度

問4 あなたは、県の広報活動に満足していますか。

(ア)～(キ)についてそれぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=741)

- 満足している
- どちらかといえば満足している
- どちらかといえば満足していない
- 満足していない
- 見たことがないのでわからない
- 無回答

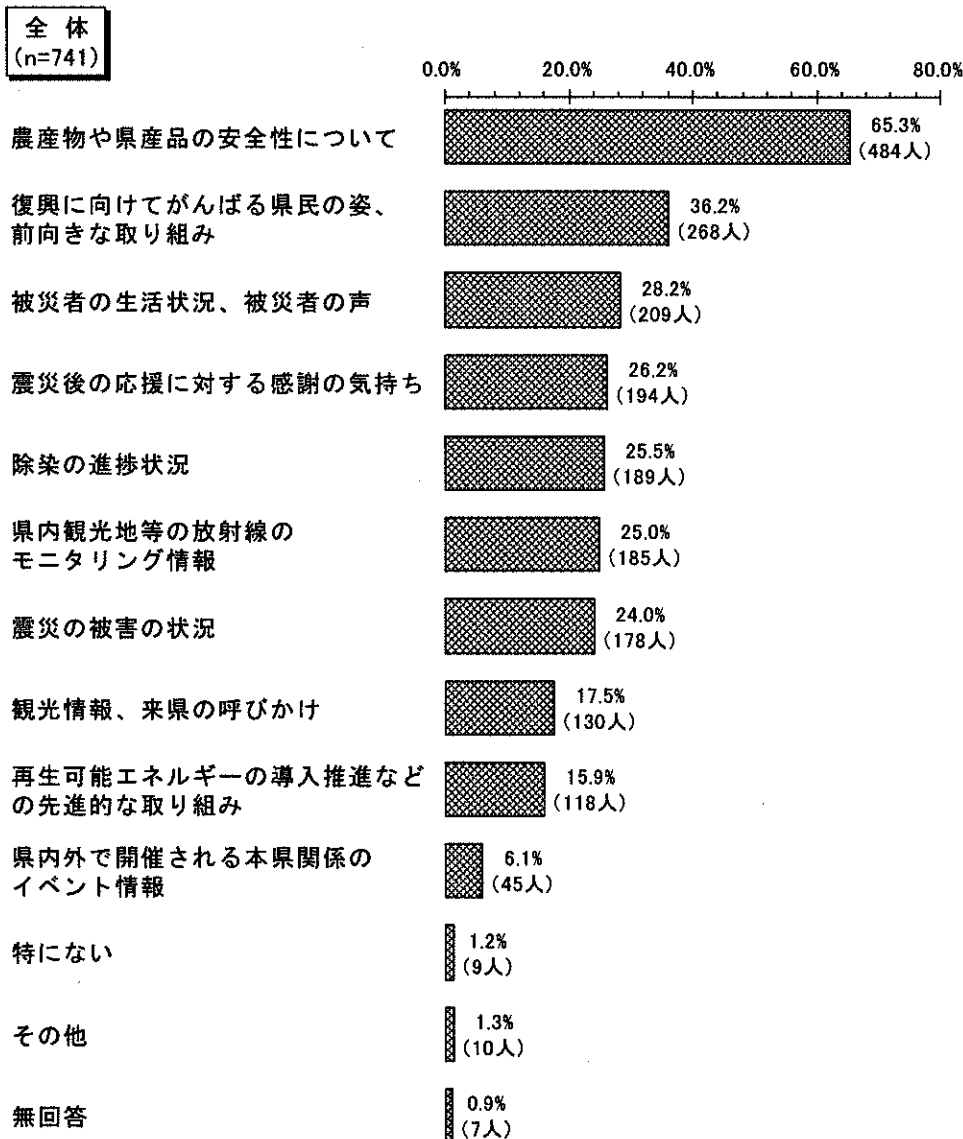


県の広報活動に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足している』計の割合をみると、〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（53.7%）が最も多く、半数強となっている。以下、〈広報誌『ふくしまから はじめよう。ゆめだより』〉（38.5%）が3割台、〈テレビ『キビタン GO（福島テレビ：毎週火曜日 21:54～22:00）』〉（20.4%）が2割台、〈テレビ『新生ふくしま（福島中央テレビ：毎週日曜日 13:00～13:05）』〉（19.0%）、インターネット『県ホームページ』〉（10.9%）が1割台となっている。

一方、「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」を合わせた『満足していない』計の割合は、〈広報誌『ふくしまから はじめよう。ゆめだより』〉（29.0%）が3割弱で最も高くなっている。次いで、あまり差がなく〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（24.7%）が続いている。以下、〈テレビ『新生ふくしま（福島中央テレビ：毎週日曜日 13:00～13:05）』〉（14.6%）、〈テレビ『キビタン GO（福島テレビ：毎週火曜日 21:54～22:00）』〉（14.2%）、〈インターネット『県ホームページ』〉（12.7%）となっている。

(5) 県外に発信すべき内容

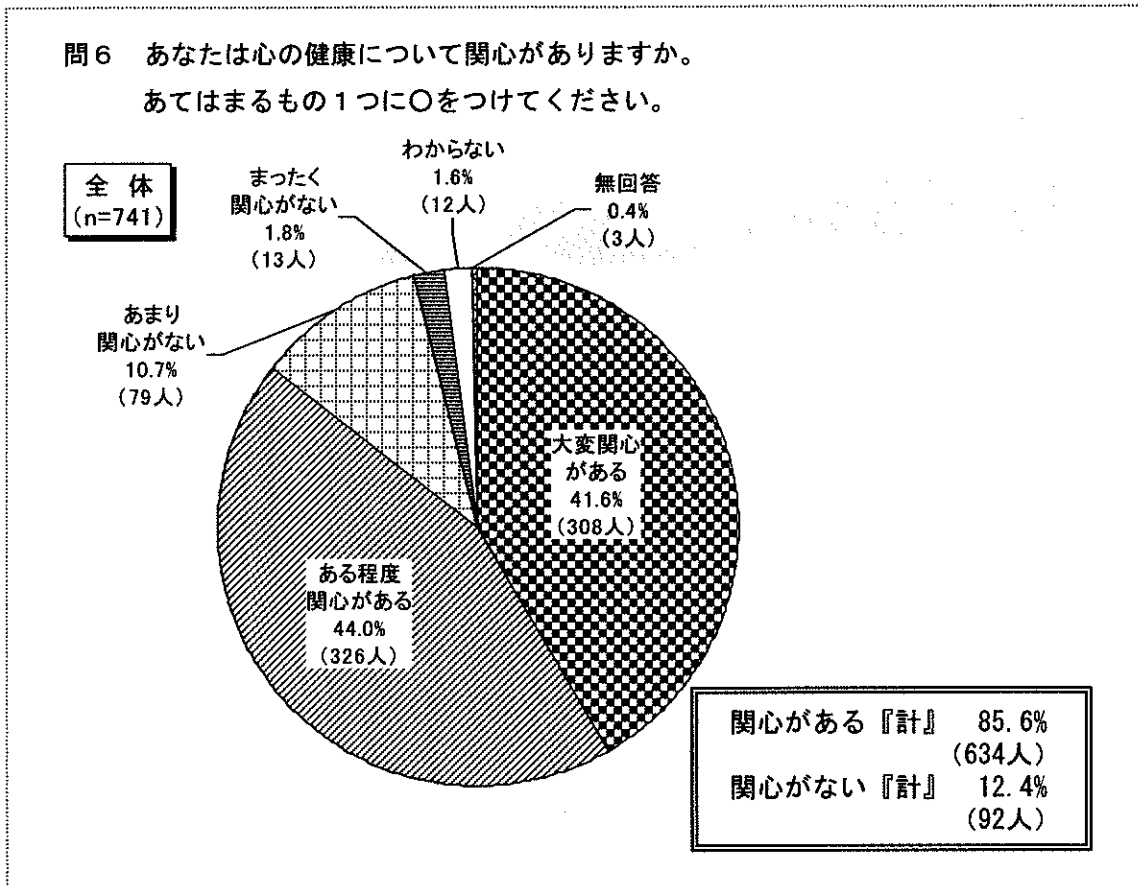
問5 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



福島県の現状について、県外に伝えたいことは、「農産物や県産品の安全性について」(65.3%)が最も多くなっている。以下、「復興に向けてがんばる県民の姿、前向きな取り組み」(36.2%)が3割台、「被災者の生活状況、被災者の声」(28.2%)、「震災後の応援に対する感謝の気持ち」(26.2%)、「除染の進捗状況」(25.5%)、「県内観光地等の放射線のモニタリング情報」(25.0%)、「震災の被害の状況」(24.0%)、が2割台、「観光情報、来県の呼びかけ」(17.5%)、「再生可能エネルギーの導入推進などの先進的な取り組み」(15.9%)が1割台で続いている。

2. 心の健康について

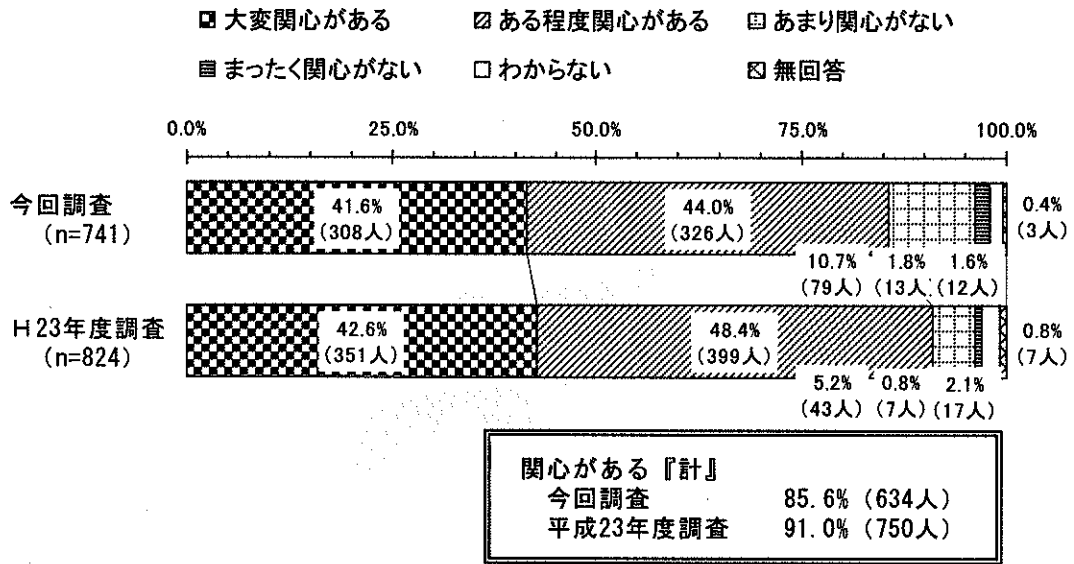
(1) 心の健康への関心の有無



心の健康に「大変関心がある」と回答した人は 41.6%で、これに「ある程度関心がある」(44.0%)を合わせた『関心がある』計の割合は 85.6%となっている。

一方、「まったく関心がない」は 1.8%で、これに「あまり関心がない」(10.7%)を合わせた『関心がない』計の割合は 12.4%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

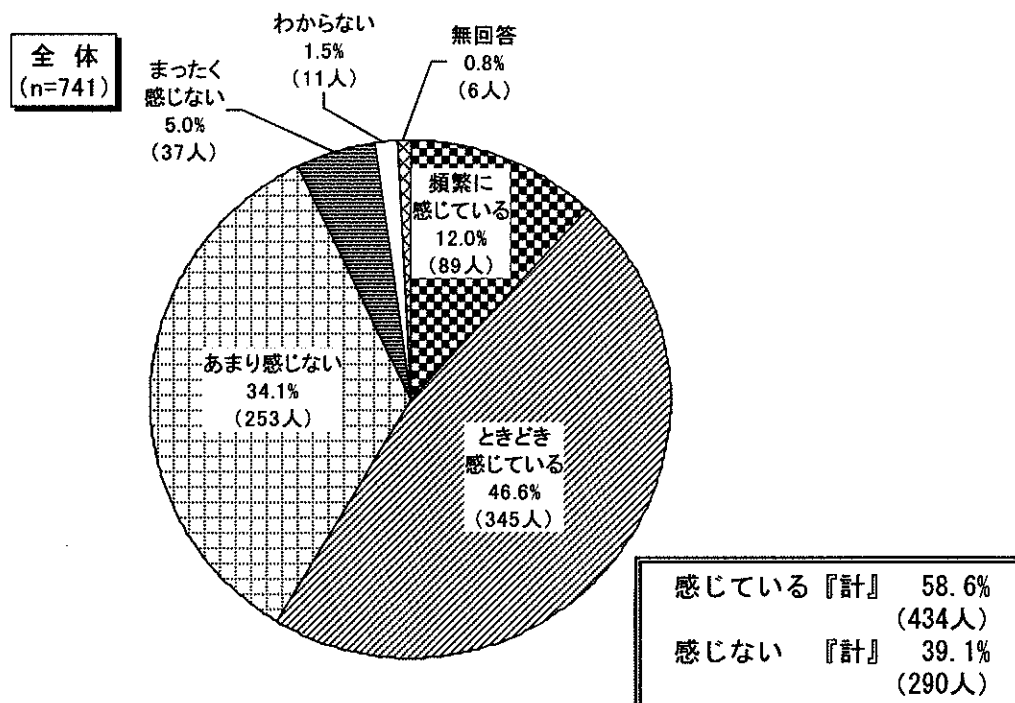


『関心がある』計（今回調査 85.6%、平成 23 年度調査 91.0%）の割合は、今回調査の方が減少している。

(2) 精神的な疲労の認識

問7 ふだん、気分が落ち込む、あるいは精神的に疲れていると感じることがありますか。

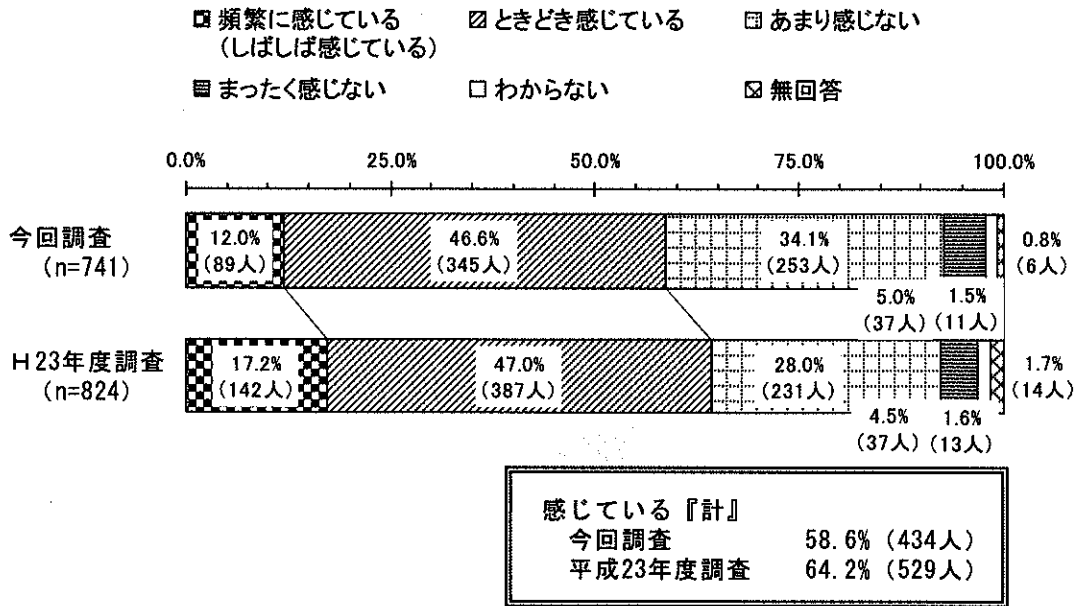
あてはまるもの1つに○をつけてください。



気分の落ち込みや精神的な疲労を「頻繁に感じている」と回答した人は 12.0%で、これに「ときどき感じている」(46.6%)を合わせた『感じている』計の割合は 58.6%となっている。

一方、「まったく感じない」は 5.0%で、これに「あまり感じない」(34.1%)を合わせた『感じない』計の割合は 39.1%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



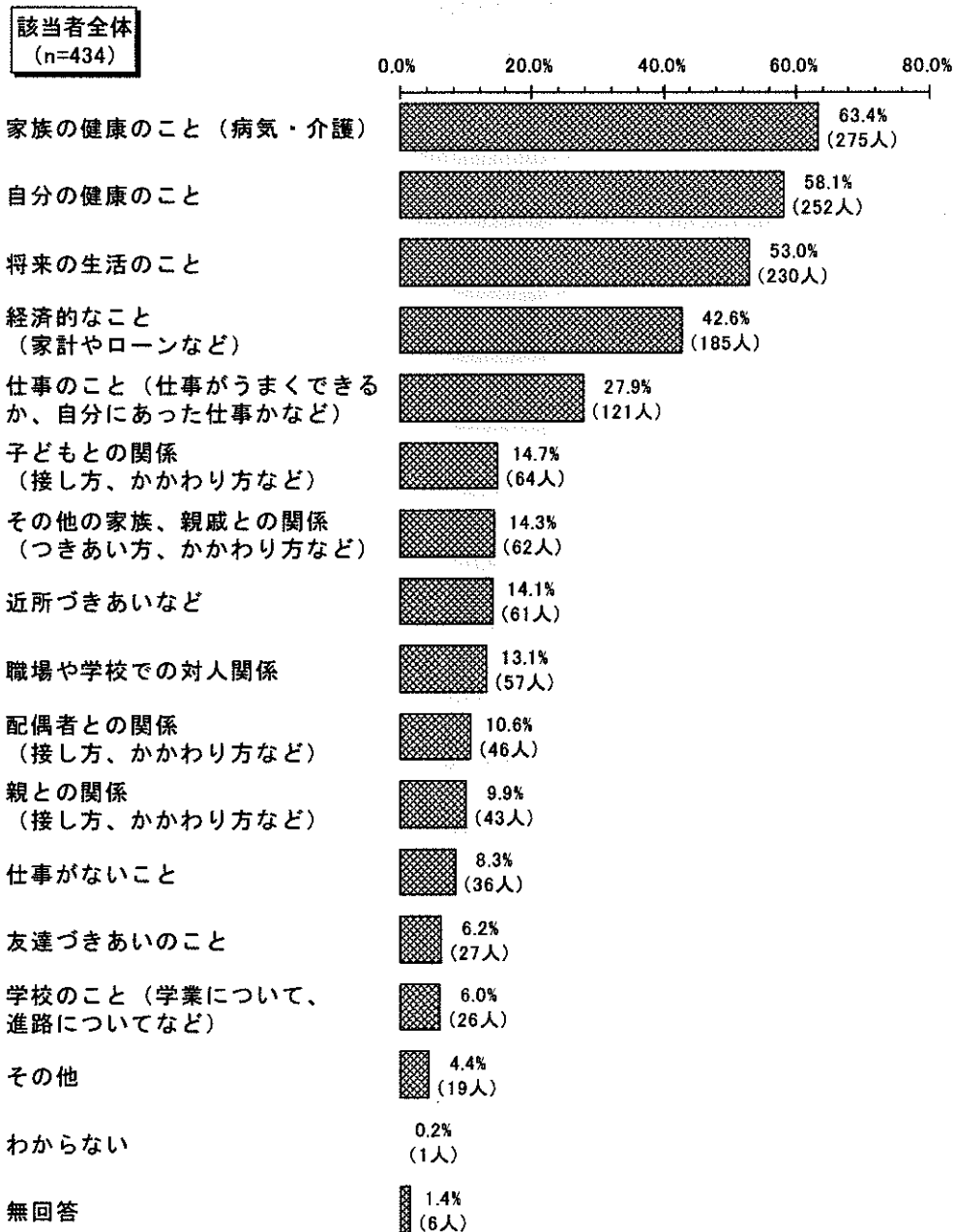
『感じている』計 (今回調査 58.6%、平成 23 年度調査 64.2%) の割合は、今回調査の方が減少している。

(3) 心の負担になっていること

(問7で、「1 頻繁に感じている」、または「2 ときどき感じている」とお答えの方にお尋ねします。)

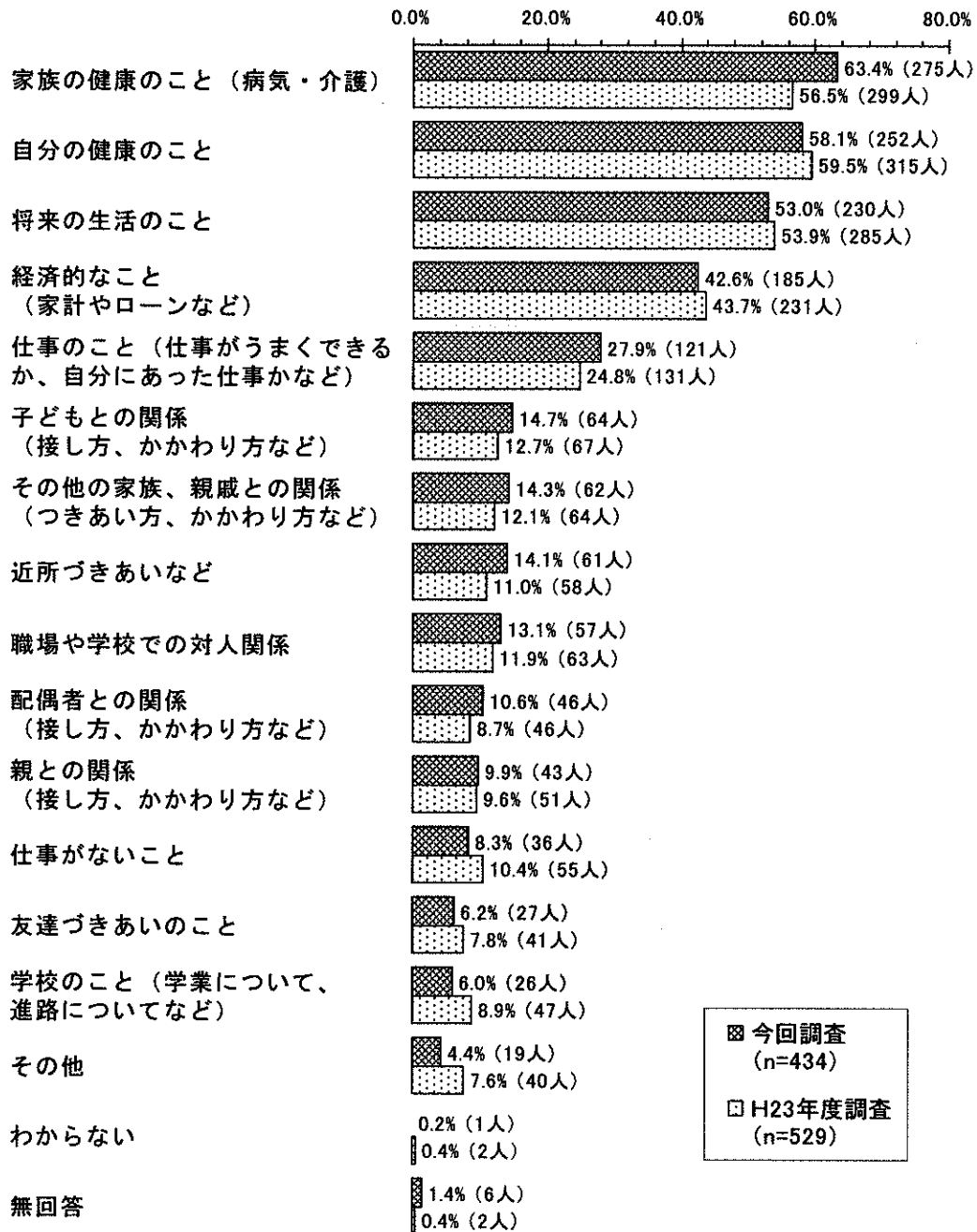
問7-1 主にどのようなことが心の負担になりますか。

あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。



心の負担になることは、「家族の健康のこと (病気、介護)」(63.4%) が最も多く6割強となっている。以下、「自分の健康のこと」(58.1%) と「将来の生活のこと」(53.0%) が5割台、「経済的なこと (家計やローンなど)」(42.6%) が4割台、「仕事のこと (仕事がうまくできるか、自分にあった仕事かなど)」(27.9%) が2割台などとなっている。

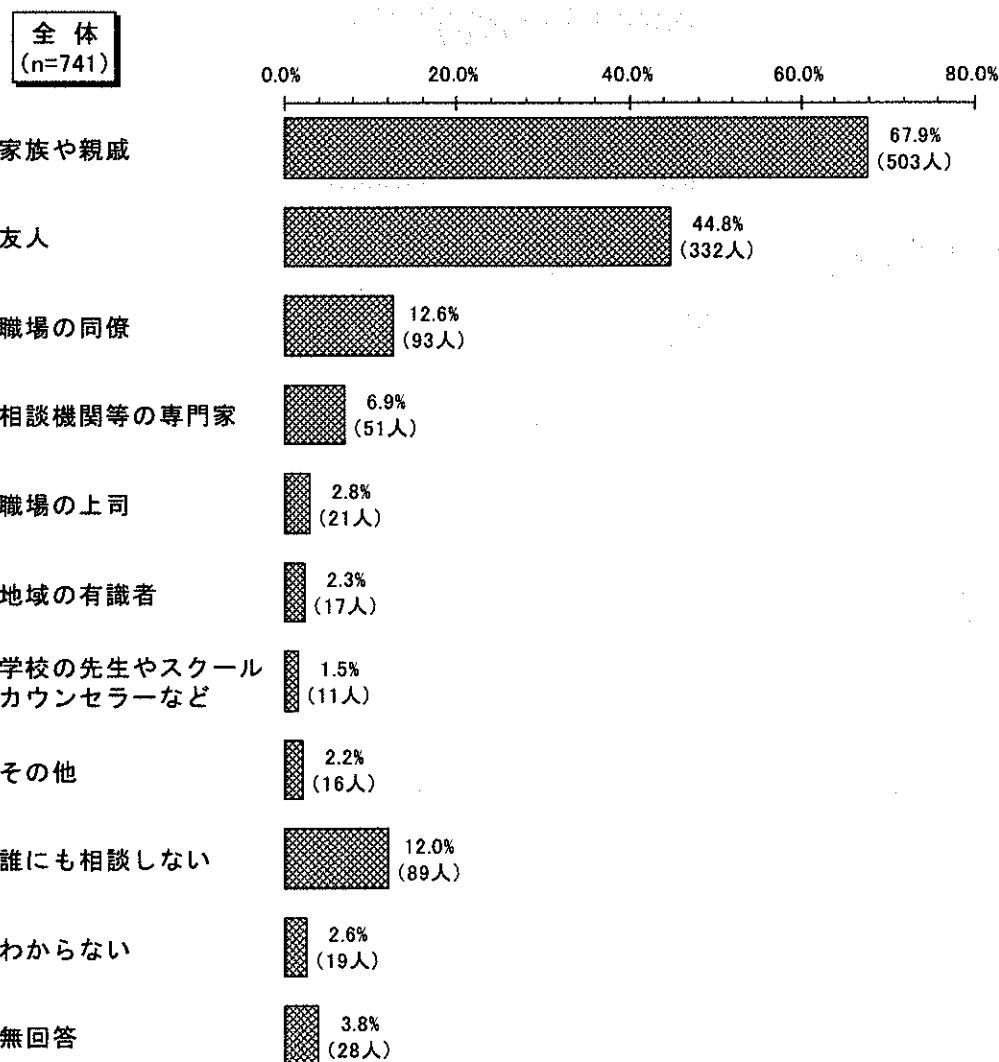
【参考 平成 23 年度調査との比較】



平成 23 年度調査では「自分の健康のこと」の割合が最も高かったのに対して、今回調査では「家族の健康のこと (病気・介護)」の割合が最も高く、平成 23 年度調査に比べ約 7 ポイント上昇している。

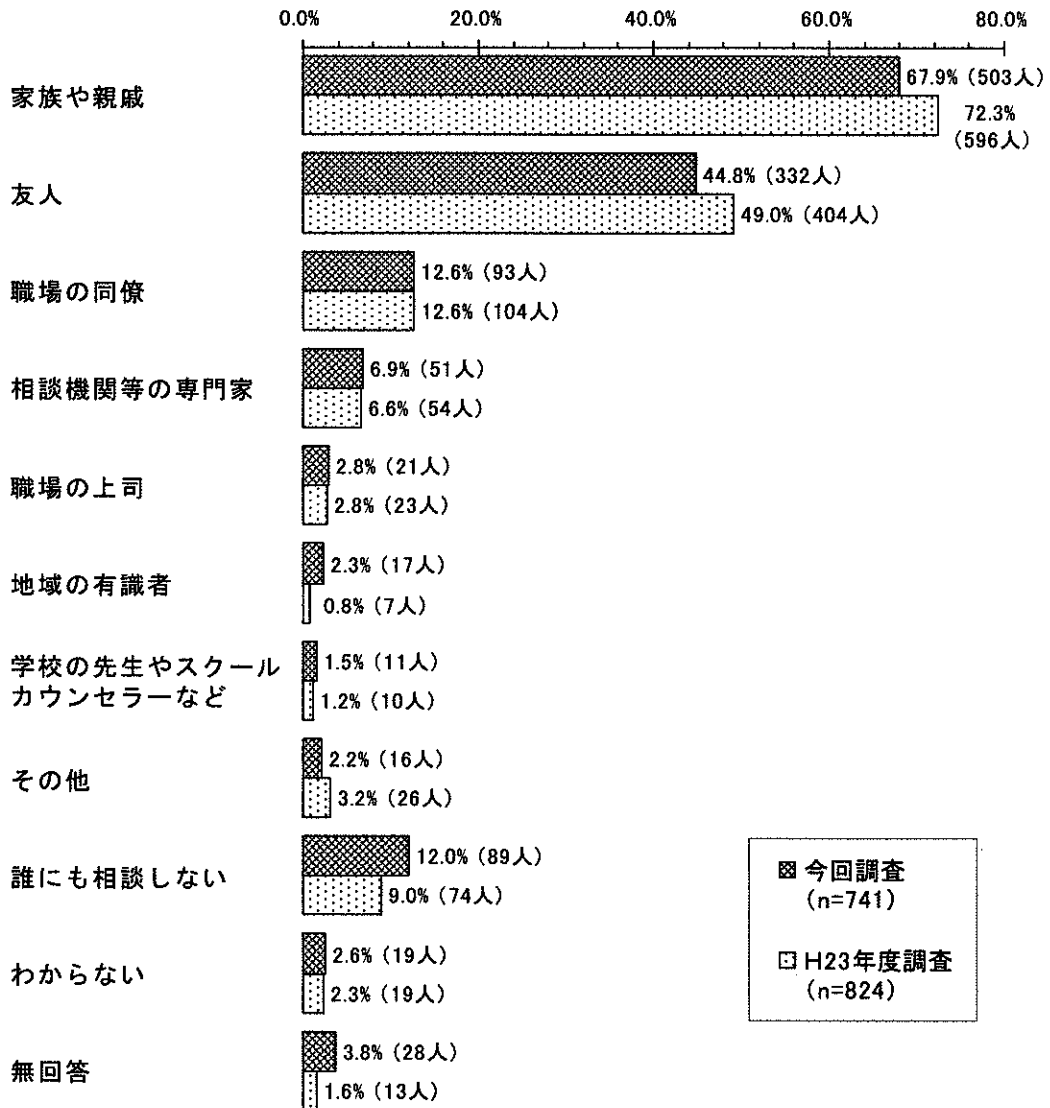
(4) 心の健康についての相談先

問8 心の健康について心配なことがある時、あなたは誰に相談しますか。
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。(複数回答可)



心の健康の相談先は「家族や親戚」(67.9%)が最も多く、7割弱となっている。以下、「友人」(44.8%)が4割台、「職場の同僚」(12.6%)が1割台となっている。一方、「誰にも相談しない」が12.0%、「わからない」が2.6%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



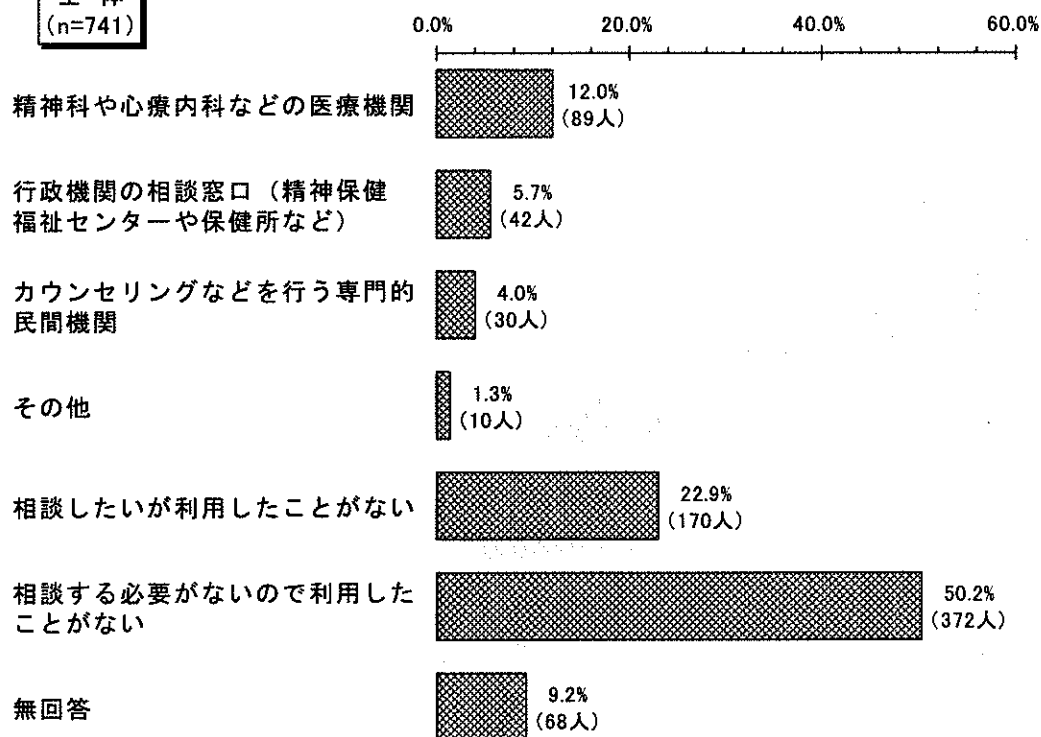
今回調査では平成 23 年度調査と同様の傾向が見られるが、「家族や親戚」と「友人」の割合は、平成 23 年度調査に比べ減少している。

(5) 利用したことがある相談機関

問9 心の健康について相談するため、どのような相談機関を利用したことがありますか。

あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

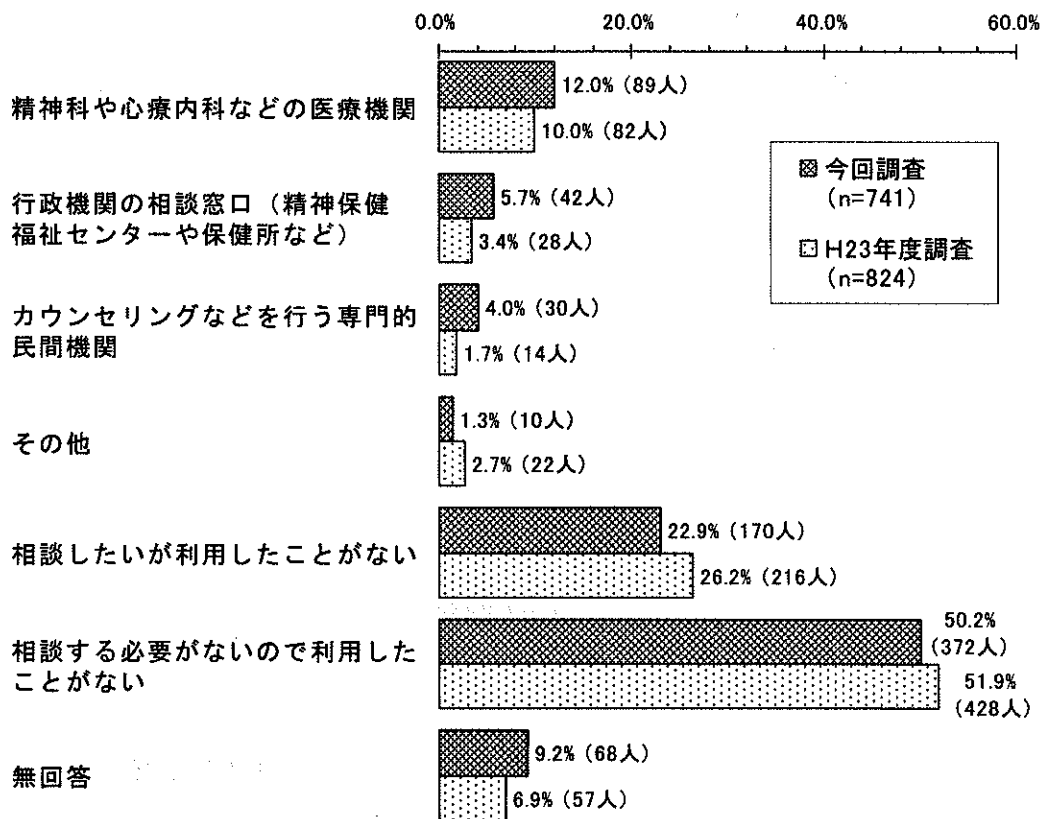
全体
(n=741)



利用したことがある相談機関については、「相談する必要がないので利用したことがない」(50.2%)が最も多く約5割となっている。次いで、「相談したいが利用したことがない」(22.9%)の順となっている。

一方、利用したことがある相談機関で回答が最も多かったものは、「精神科や心療内科などの医療機関」の12.0%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



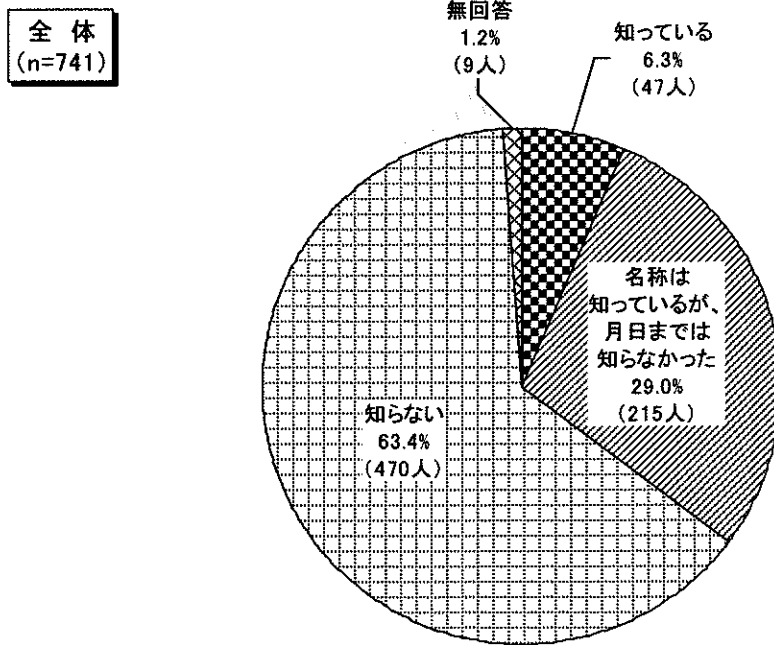
今回調査では平成 23 年度調査と同様の傾向が見られる。

3. 食育について

(1) 『食育月間』『食育の日』の認知状況

問10 あなたは、「毎年6月は『食育月間』、毎月19日は『食育の日』」であることを知っていますか。

あてはまるものに1つに○をつけてください。



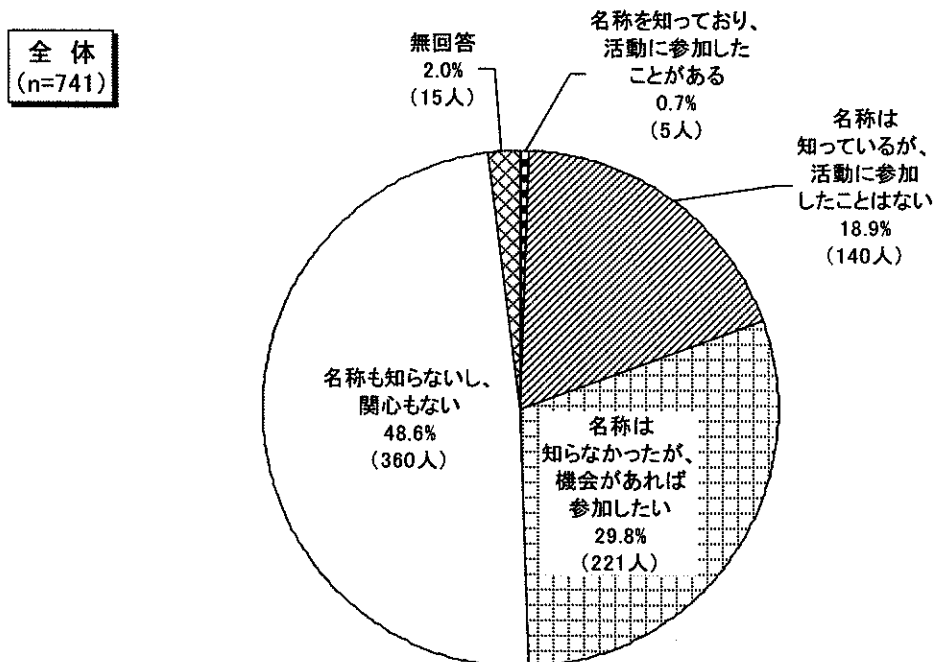
『食育月間』『食育の日』について「知らない」と回答した人は63.4%と高く、6割を超えている。「名称は知っているが、月日までは知らなかった」(29.0%)が3割弱で続いている。

(2) 『福島県食育応援企業団』について

問11 県では、福島県と食育活動を行う企業が連携し、県民運動として食育の推進を図るため、「福島県食育応援企業団」を設置しています。

あなたは、その名称を知っていますか。

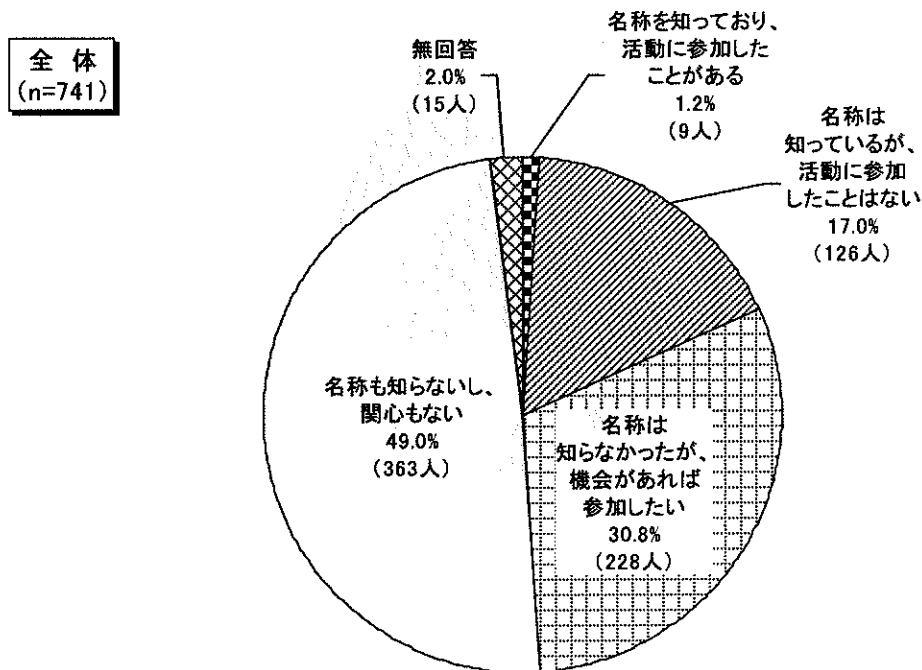
また、その活動に参加したことがありますか。



『福島県食育応援企業団』について、「名称も知らないし、関心もない」(48.6%)が最も多く、半数弱になっている。以下、「名称は知らなかったが、機会があれば参加したい」(29.8%)が3割弱、「名称は知っているが、活動に参加したことはない」(18.9%)が2割弱となっている。

(3) 『ふくしま食育実践サポーター』について

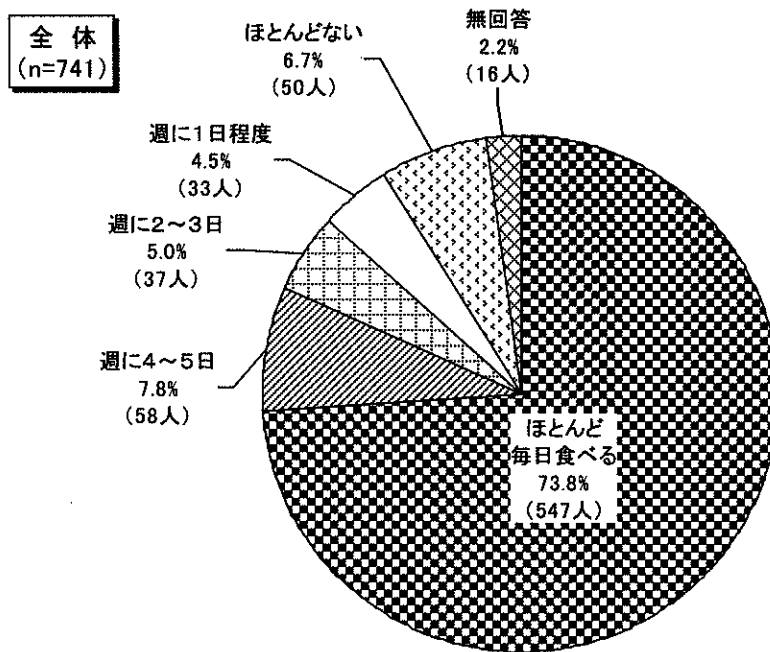
問 12 県では、福島県と地域の食育活動を支援するため、食育体験や交流、食生活改善、地域の食文化や郷土食の伝承等の活動を実践する方々を「ふくしま食育実践サポーター」として登録し、学校や地域団体の要請に応じて派遣しています。あなたは、その名称を知っていますか。また、その活動に参加したことがありますか。



『ふくしま食育実践サポーター』について、「名称も知らないし、関心もない」(49.0%)が最も多く、半数弱になっている。以下、「名称は知らなかったが、機会があれば参加したい」(30.8%)が3割強、「名称は知っているが、活動に参加したことはない」(17.0%)が2割弱となっている。

(4) 朝食または夕食を家族と一緒に食べる頻度

問 13 朝食または夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

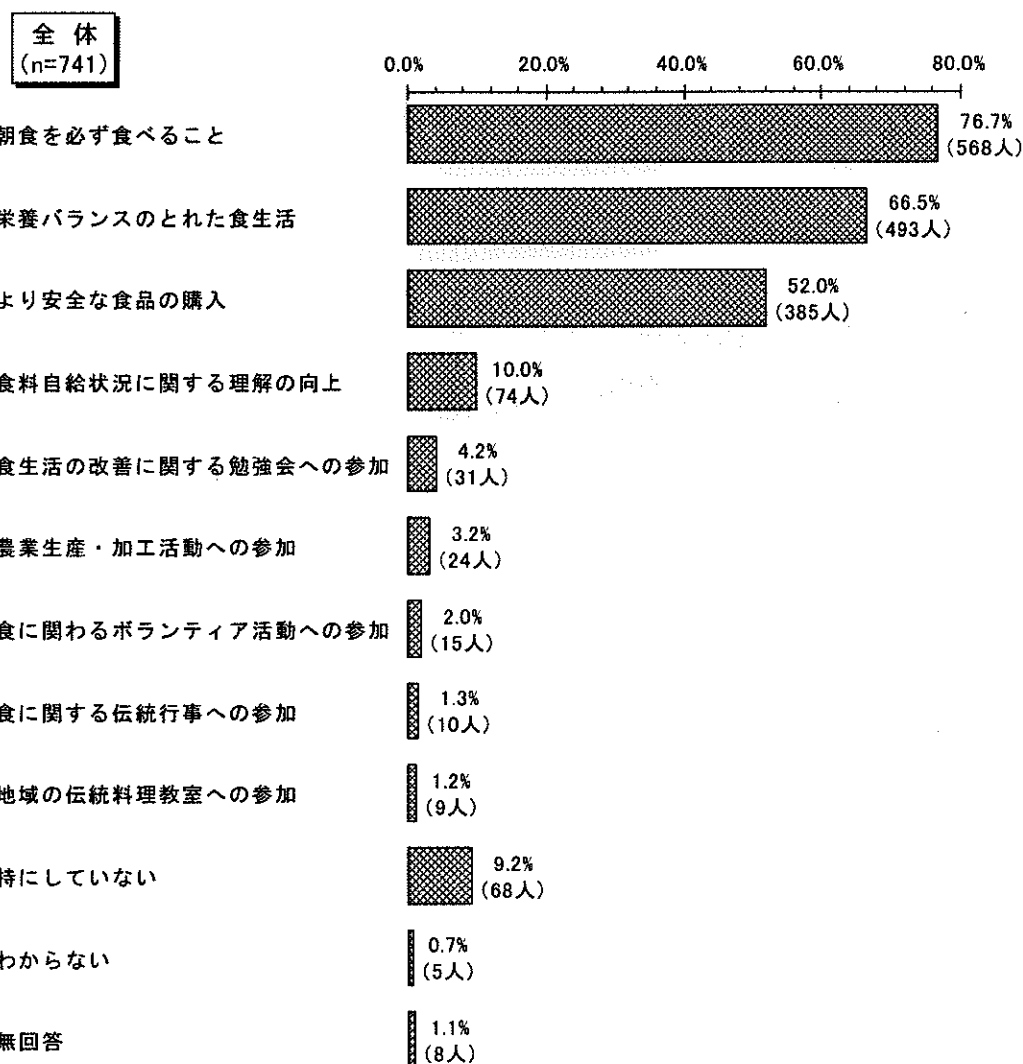


朝食または夕食を家族と一緒に食べる頻度は、「ほとんど毎日食べる」(73.8%)が最も多く、7割強となっている。以下、「週に4~5日」(7.8%)、「ほとんどない」(6.7%)となっている。

(5) 実践している活動や行動

問14 あなたは、日ごろから健全な食生活を行うために「食育」に関する活動や行動を実践していますか。

あてはまるものにもいくつか○をつけてください。(複数回答可)



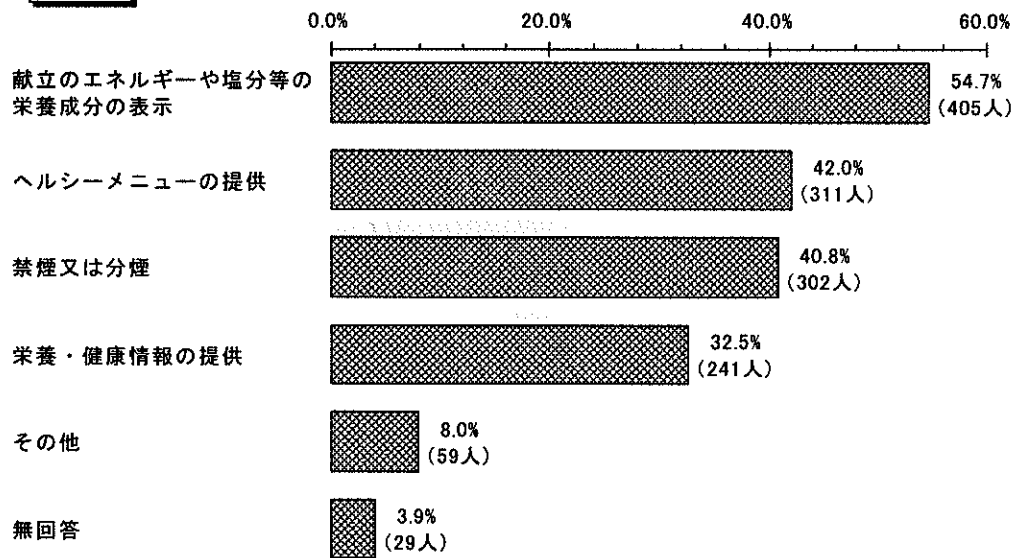
実践している活動や行動としては、「朝食を必ず食べる」(76.7%)が最も多く、8割弱となっている。以下、「栄養バランスのとれた食生活」(66.5%)が6割台、「より安全な食品の購入」(52.0%)が5割台となっている。

(6) 実施して欲しい健康サービス

問 15 あなたは、健康に配慮した食環境を整備するために、飲食店等で実施して欲しいと思う健康サービスは何ですか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=741)



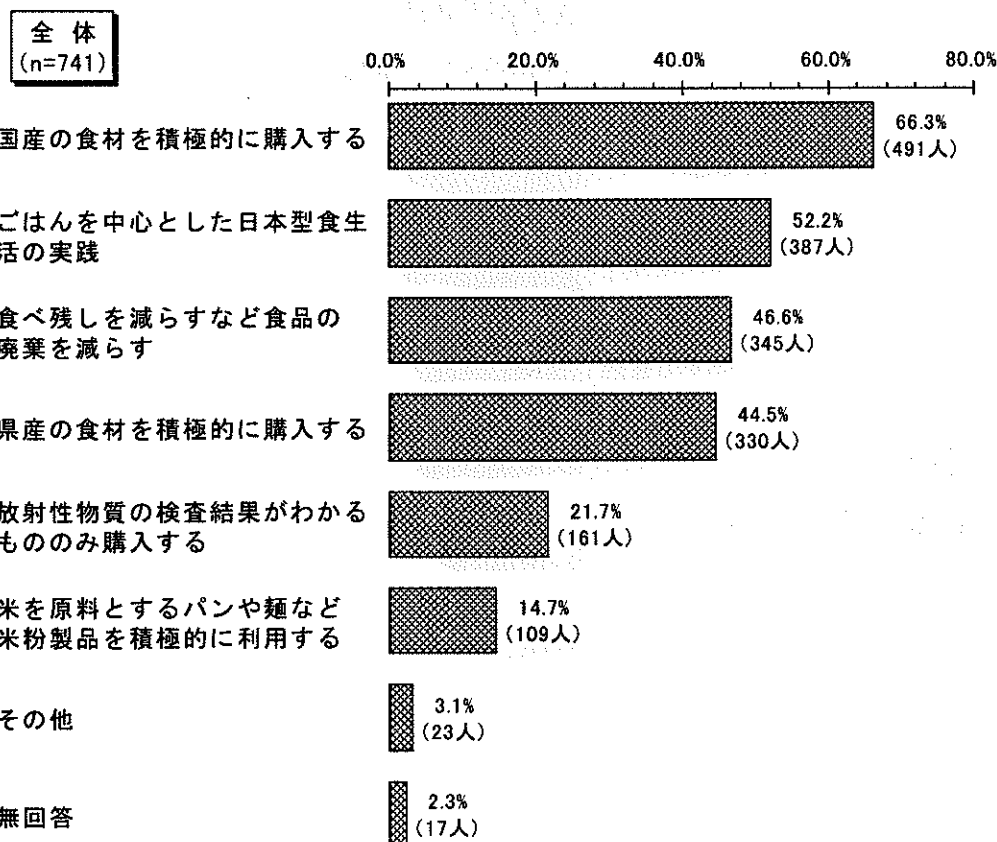
実施して欲しい健康サービスは、「献立のエネルギーや塩分等の栄養成分の表示」(54.7%)が最も多く、5割強となっている。以下、「ヘルシーメニューの提供」(42.0%)と「禁煙又は分煙」(40.8%)が4割台、「栄養・健康情報の提供」(32.5%)が3割台となっている。

4. 農林水産業について

(1) 農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいこと

問 16 震災後、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

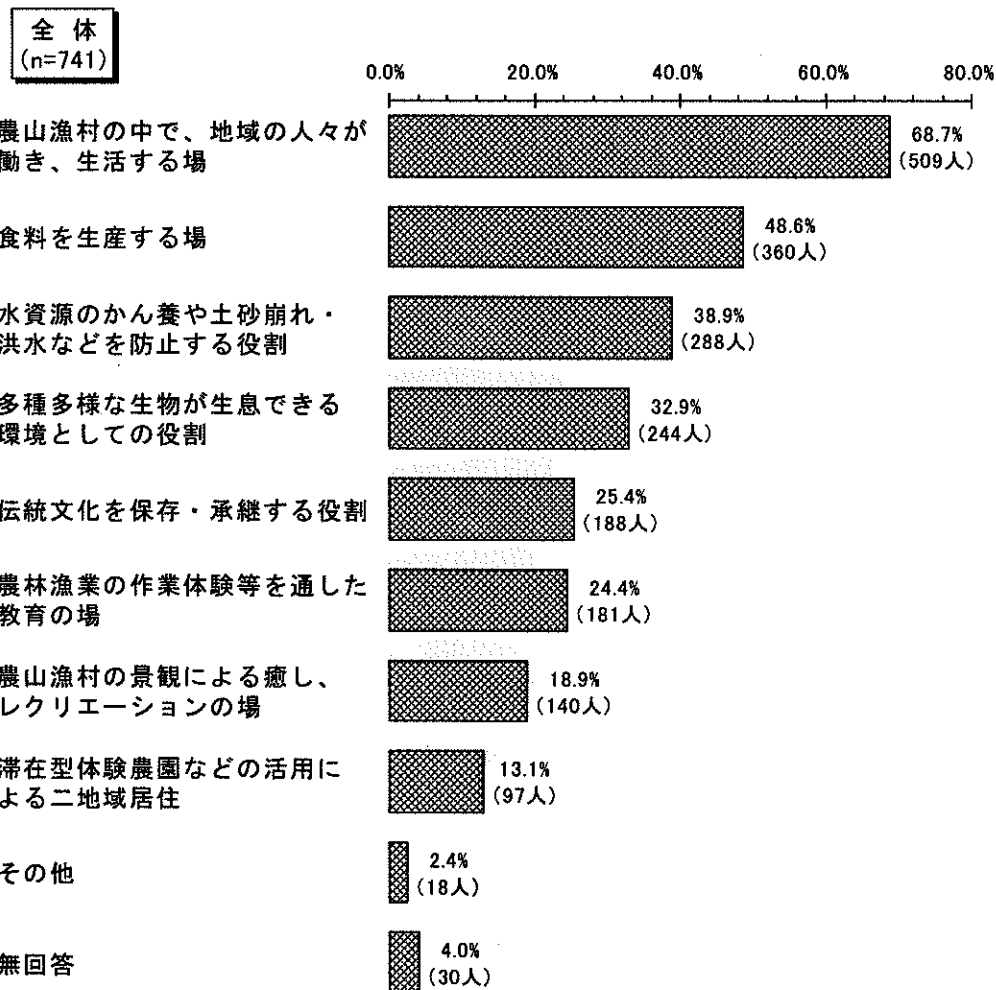


震災後、農林水産物の購入や食生活で実践または実践したいことは、「国産の食材を積極的に購入する」(66.3%)と回答した人が最も多く、7割弱となっている。以下、「ごはんを中心とした日本型食生活の実践」(52.2%)は5割台、「食べ残しを減らすなど食品の廃棄を減らす」(46.6%)と「県産の食材を積極的に購入する」(44.5%)が4割台、「放射線物質の検査結果がわかるもののみ購入する」(21.7%)が2割台、「米を原料とするパンや麺など米粉製品を積極的に利用する」(14.7%)が1割台となっている。

(2) 農山漁村の役割として期待すること

問17 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



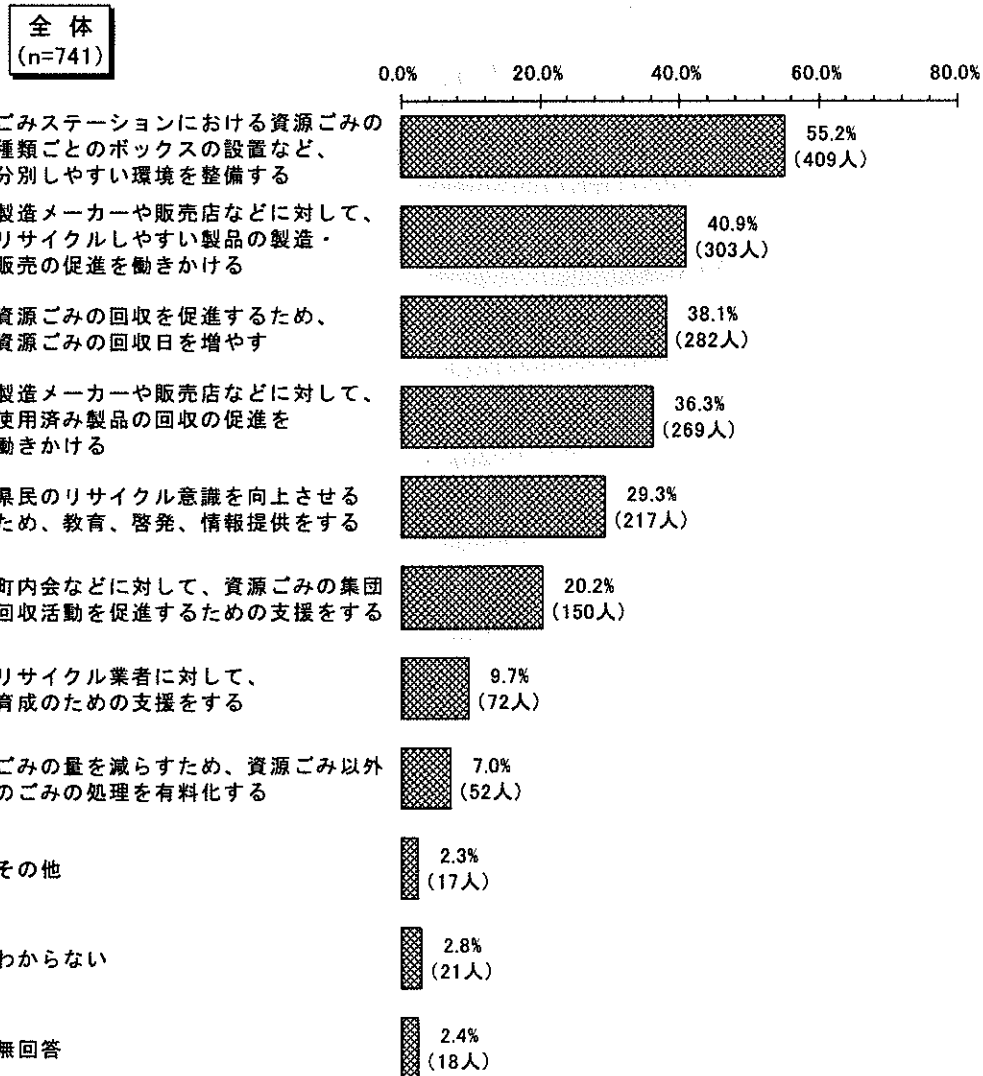
農山漁村の役割として期待することは、「農山漁村の中で、地域の人々が働き、生活する場」(68.7%)が最も多く、7割弱となっている。次いで、「食料を生産する場」(48.6%)が5割弱で続き、以下、「水資源のかん養や土砂崩れ・洪水などを防止する役割」(38.9%)と「多種多様な生物が生息できる環境としての役割」(32.9%)が3割台、「伝統文化を保存・承継する役割」(25.4%)と「農林漁業の作業体験等を通じた教育の場」(24.4%)が2割台、「農山漁村の景観による癒し、レクリエーションの場」(18.9%)と「滞在型体験農園などの活用による二地域居住」(13.1%)が1割台となっている。

5. 廃棄物対策について

(1) 行政の取組として必要なこと

問 18 あなたは、リサイクル率を向上させるための行政の取組として必要なことは何だと思えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

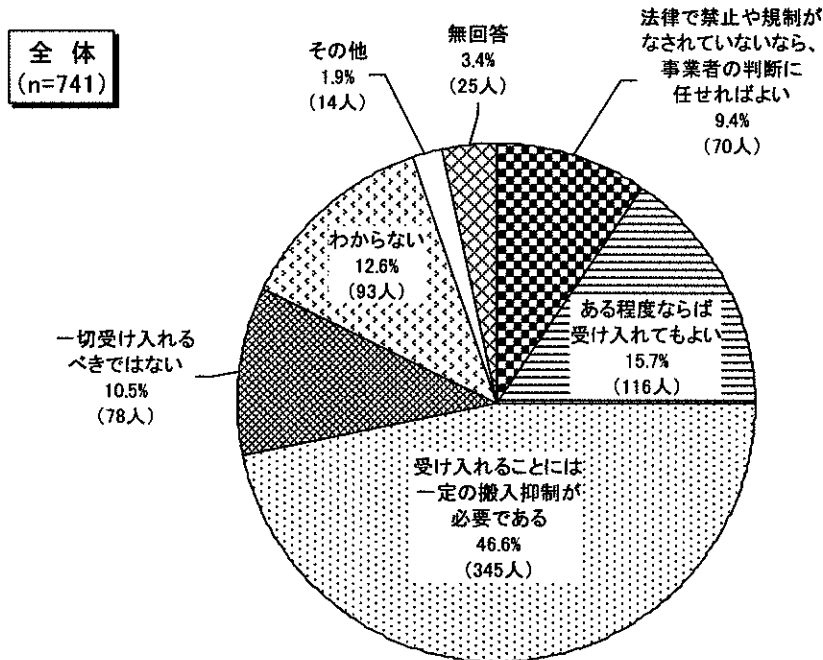


行政の取組として必要なこととしては、「ごみステーションにおける資源ごみの種類ごとのボックスの設置など、分別しやすい環境を整備する」(55.2%)の割合が最も高く、次いで、「製造メーカーや販売店などに対して、リサイクルしやすい製品の製造・販売の促進を働きかける」(40.9%)が続き、以下、「資源ごみの回収を促進するため、資源ごみの回収日を増やす」(38.1%)、「製造メーカーや販売店などに対して、使用済み製品の回収の促進を働きかける」(36.3%)、「県民のリサイクル意識を向上させるため、教育、啓発、情報提供をする」(29.3%)、「町内会などに対して、資源ごみの集団回収活動を促進するための支援をする」(20.2%)となっている。

(2) 今後の県外の産業廃棄物の受け入れについて

問 19 あなたは、今後、県外の産業廃棄物の受け入れについて、どのように考えますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



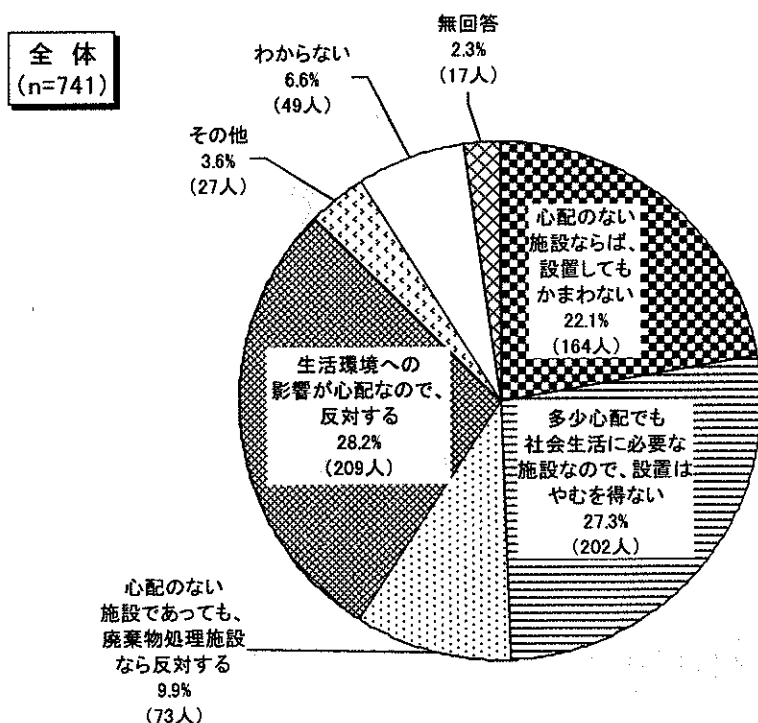
今後の県外の産業廃棄物の受け入れについては、「受け入れることには一定の搬入抑制が必要である」(46.6%)の割合が最も高く、次いで、「ある程度ならば受け入れてもよい」(15.7%)となっている。以下、「一切受け入れるべきではない」(10.5%)、「法律で禁止や規制がなされていないなら、事業者の判断に任せればよい」(9.4%)と続いている。

また、「わからない」が12.6%となっている。

(3) 近隣での廃棄物処理施設の設置計画について

問 20 お住まいの近くに廃棄物処理施設の設置が計画された場合、どのように考えますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



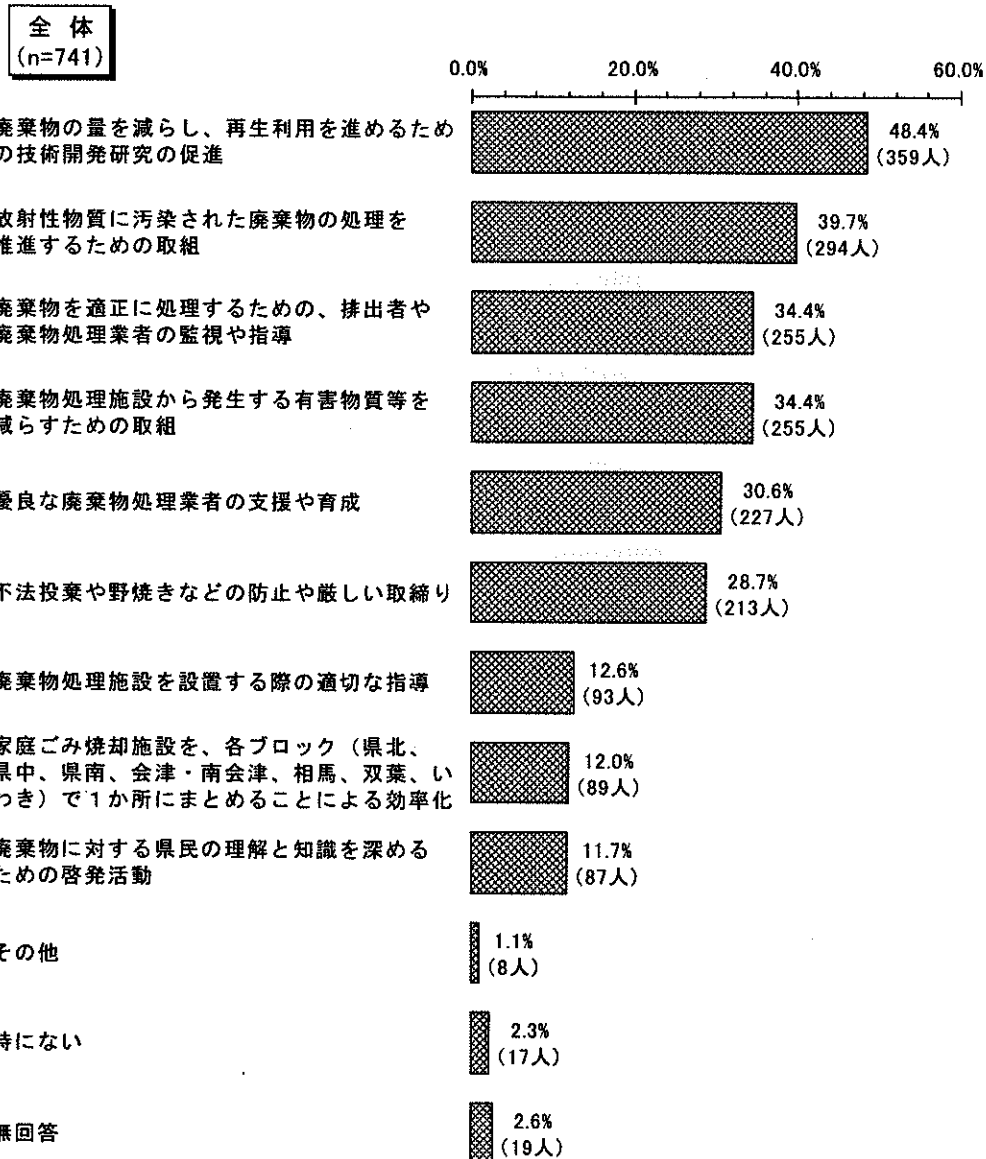
近隣に廃棄物処理施設の設置が計画された場合、「生活環境への影響が心配なので、反対する」(28.2%)の割合が最も高く、次いで、差がなく「多少心配でも社会生活に必要な施設なので、設置はやむを得ない」(27.3%)となっている。以下、「心配のない施設ならば、設置してもかまわない」(22.1%)、「心配のない施設であっても、廃棄物処理施設なら反対する」(9.9%)と続いている。

また、「わからない」が6.6%となっている。

(4) 廃棄物対策に対して県に望むこと

問 22 福島県の廃棄物対策に対して特に力を入れてほしいと思うことはどのようなことですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



廃棄物対策に対して県に特に力を入れてほしいと思うこととしては、「廃棄物の量を減らし、再生利用を進めるための技術開発研究の促進」(48.4%)の割合が最も高く、次いで、「放射性物質に汚染された廃棄物の処理を推進するための取組」(39.7%)が続き、以下、「廃棄物を適正に処理するための、排出者や廃棄物処理業者の監視や指導」「廃棄物処理施設から発生する有害物質等を減らすための取組」(それぞれ34.4%)、「優良な廃棄物処理業者の支援や育成」(30.6%)、「不法投棄や野焼きなどの防止や厳しい取締り」(28.7%)となっている。

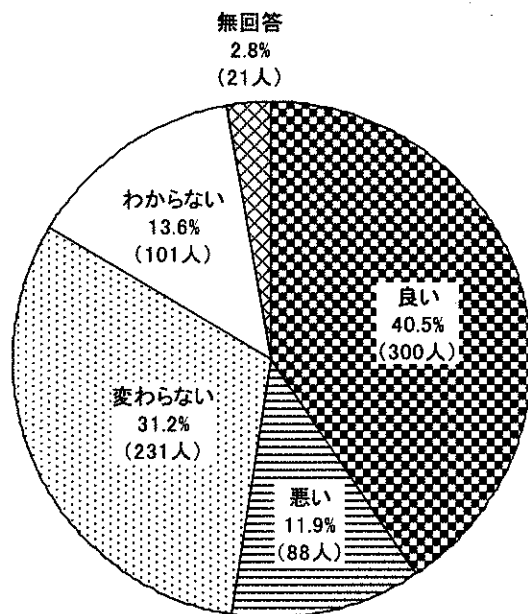
6. 地域社会の安全・安心（治安）について

（1）現在の治安状況

問22 現在あなたが住んでいる地域（仮設住宅・借り上げ住宅も含む）の治安は良いと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=741)

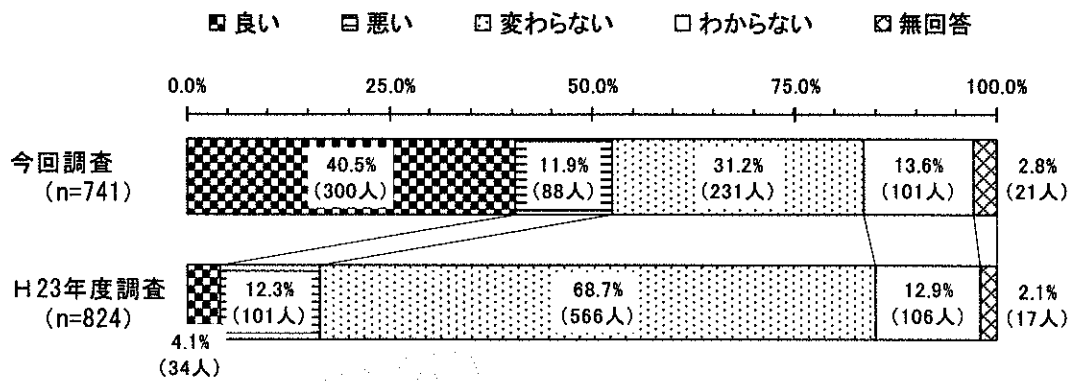


現在の居住地の治安状況が「良い」（40.5％）と思う人は4割強となっている。

一方、治安状況が「悪い」（11.9％）と思う人は1割強となっている。

また、「変わらない」（31.2％）が3割強となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



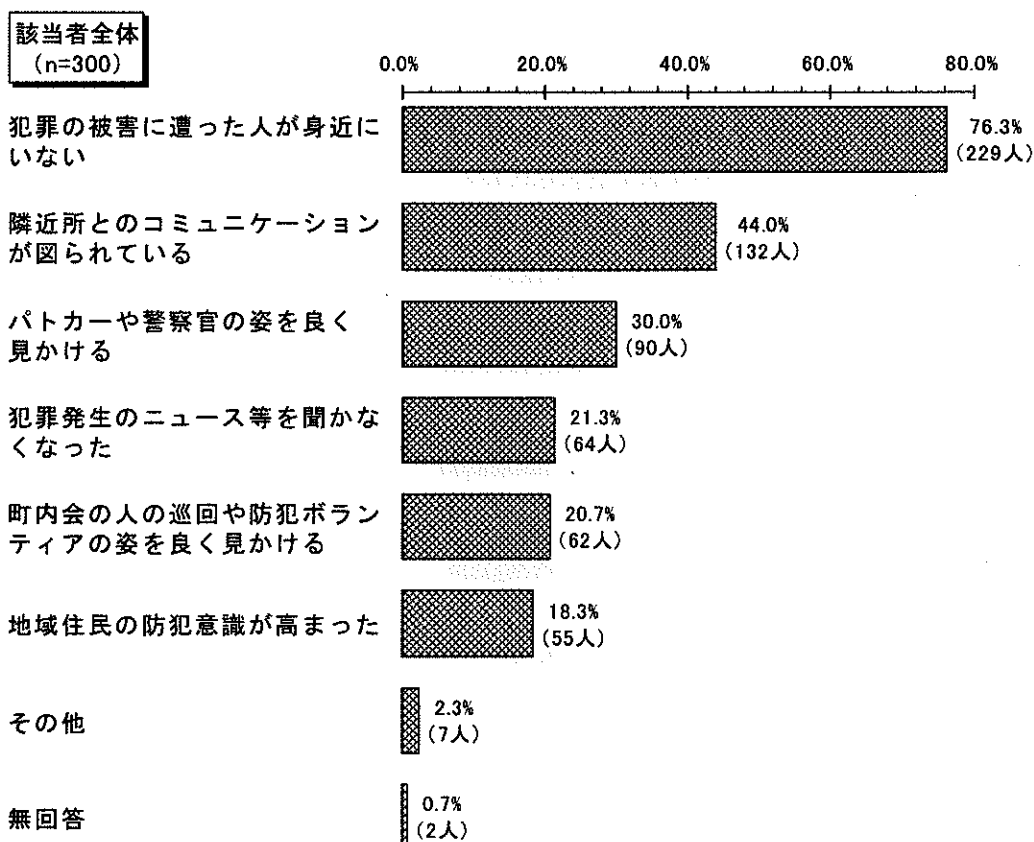
今回調査は平成 23 年度調査に比べて、「良い」の割合が、大きく上昇している。

(2) 治安状況が良いと思う理由

(問 22 で、「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

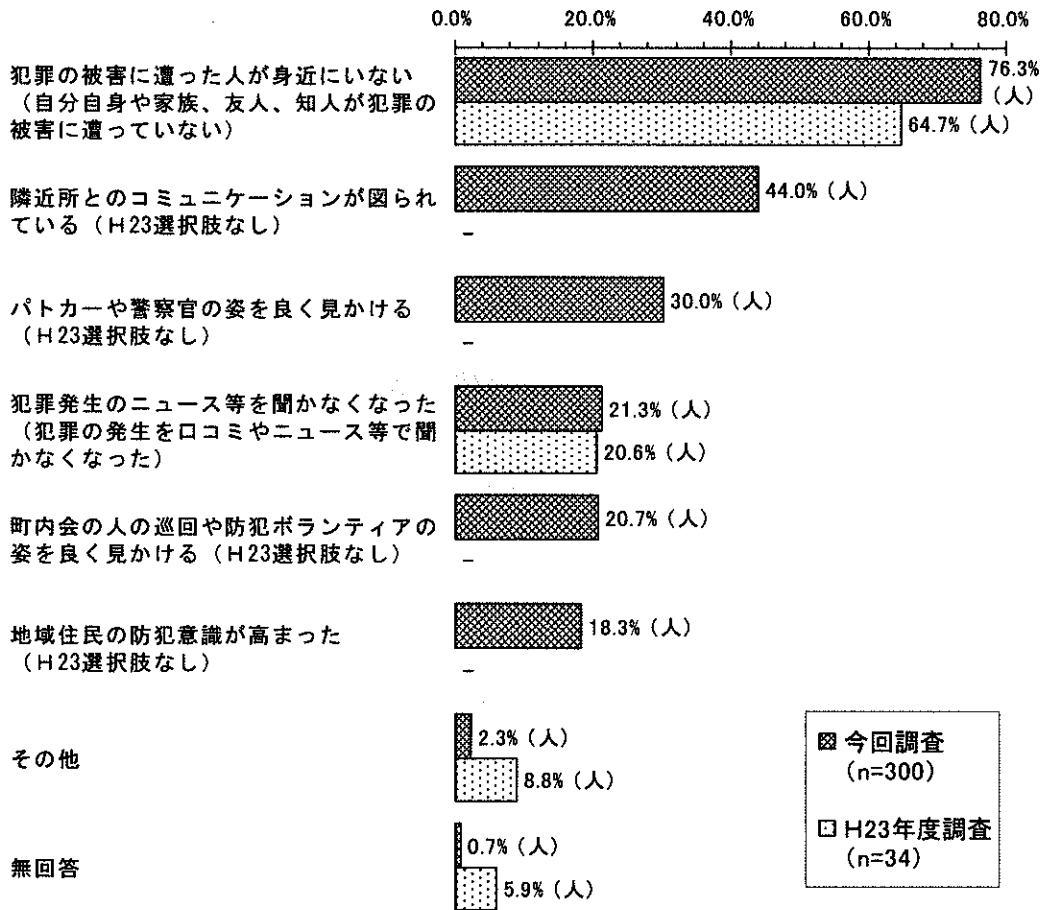
問 22-1 良いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



治安状況が良いと思う理由は、「犯罪の被害に遭った人が身近にいない」(76.3%)が最も多く、8割弱となっている。以下、「隣近所とのコミュニケーションが図られている」(44.0%)が4割台、「パトカーや警察官の姿を良く見かける」(30.0%)が3割台、「犯罪発生のニュース等を聞かなくなった」(21.3%)と「町内会の人や巡回や防犯ボランティアの姿を良く見かける」(20.7%)が2割台、「地域住民の防犯意識が高まった」(18.3%)が1割台で続いている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



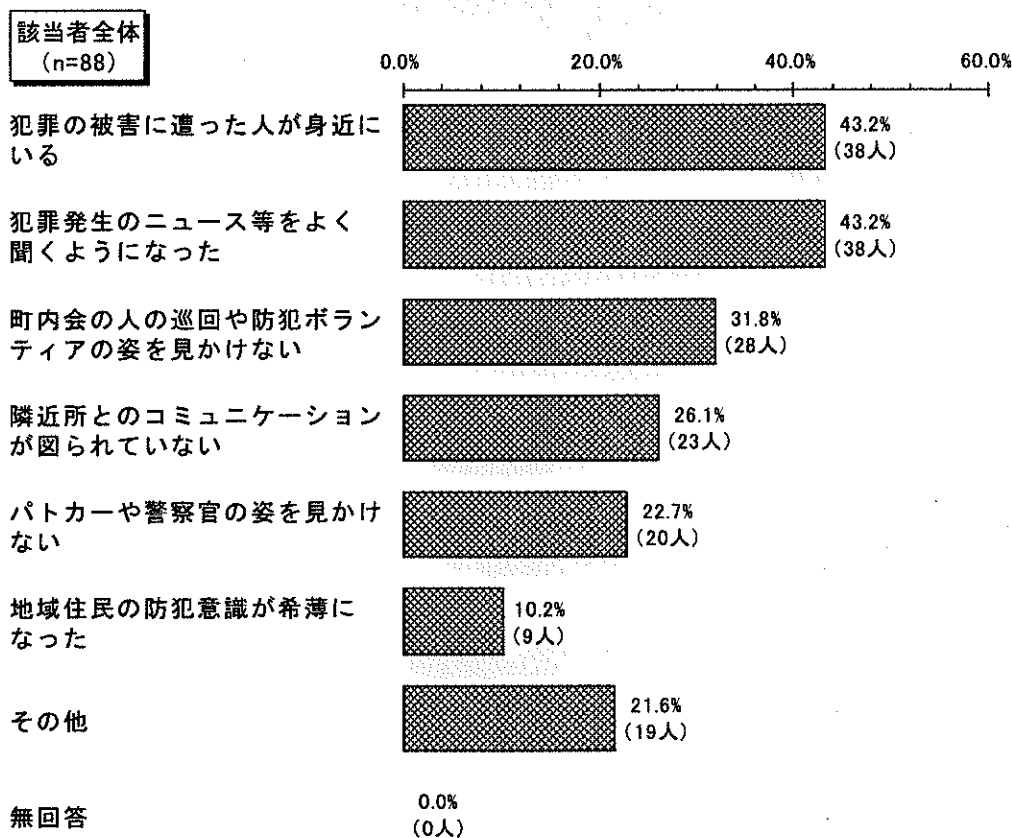
※今回調査は複数回答、平成 23 年度は単数回答、また選択肢も異なるため、図のみの掲載に留める。

(3) 治安状況が悪いと思う理由

(問 22 で、「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

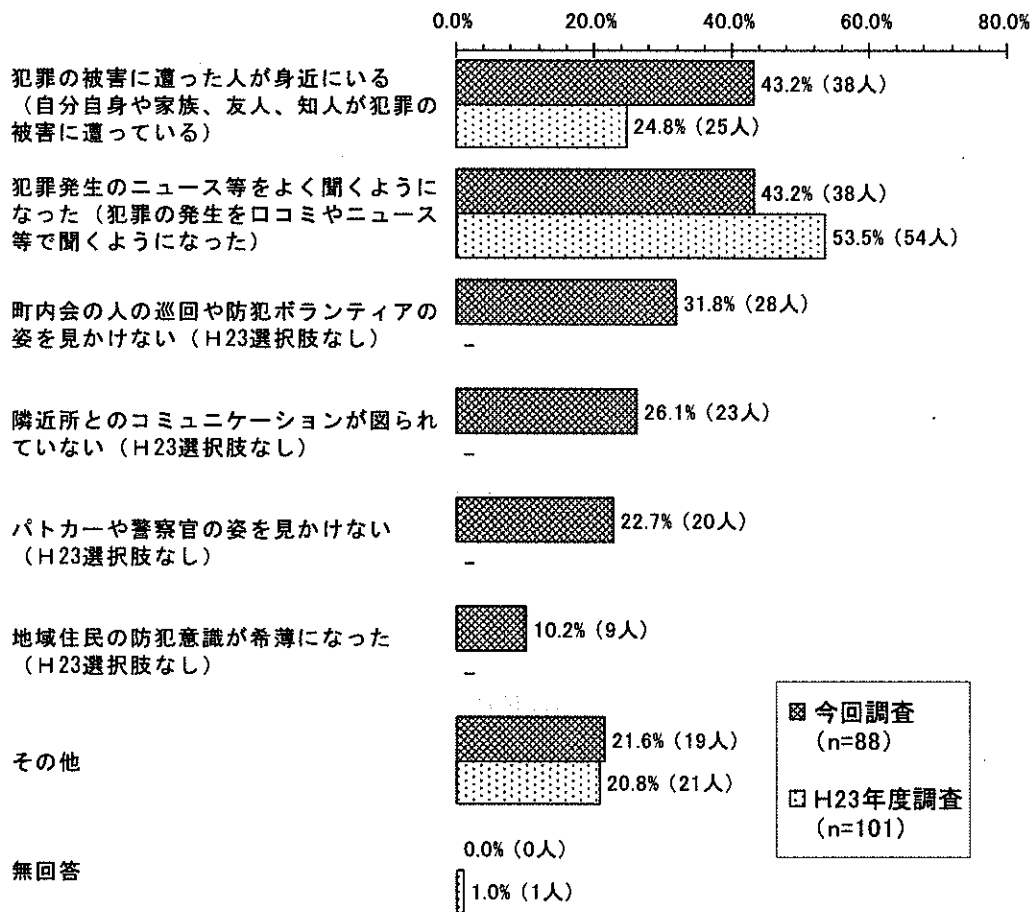
問 22-2 悪いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



治安状況が良いと思う理由は、「犯罪の被害に遭った人が身近にいる」と「犯罪発生のニュース等をよく聞くようになった」(それぞれ 43.2%) が 4 割強で高くなっている。以下、「町内会の人や防犯ボランティアの姿を見かけない」(31.8%) が 3 割台、「隣近所とのコミュニケーションが図られていない」(26.1%) と「パトカーや警察官の姿を見かけない」(22.7%) が 2 割台で続いている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

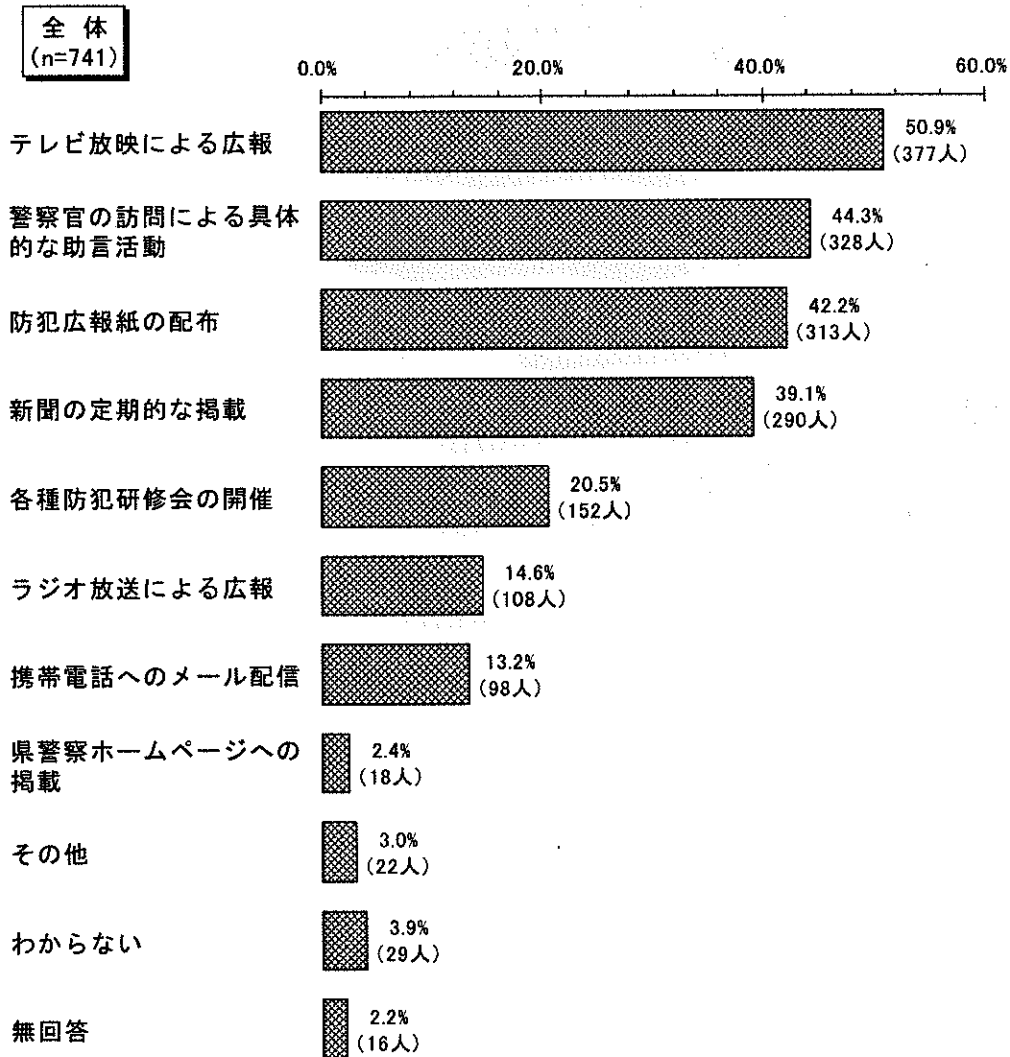


※今回調査は複数回答、平成 23 年度は単数回答、また選択肢も異なるため、図のみの掲載に留める。

(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段

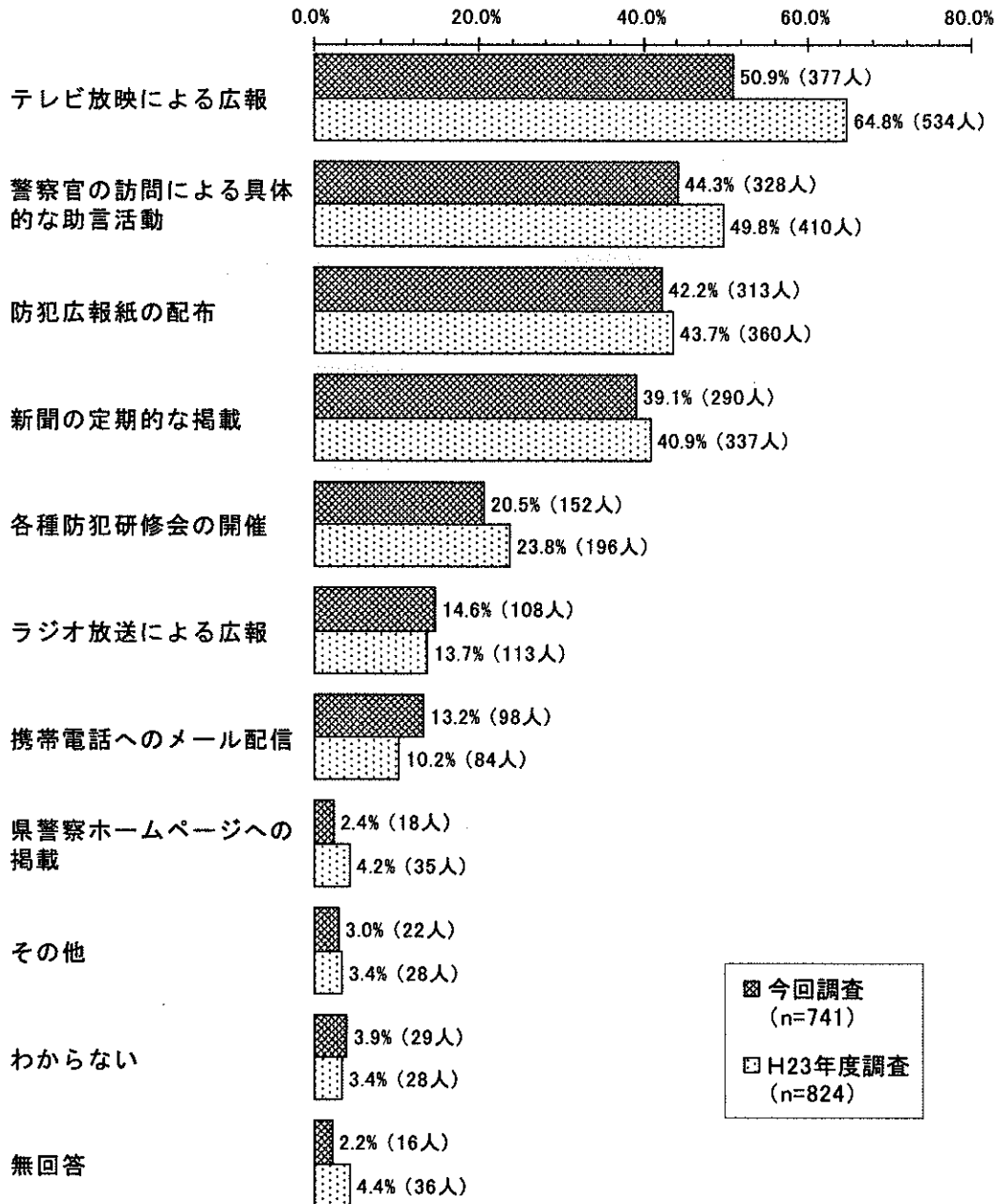
問 23 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、どのような形で提供されるのがよいと思いますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供方法については、「テレビ放映による広報」(50.9%)が最も多く、5割を超えた。以下、「警察官の訪問による具体的な助言活動」(44.3%)と「防犯広報紙の配布」(42.2%)が4割台、「新聞の定期的な掲載」(39.1%)が3割台、「各種防犯研修会の開催」(20.5%)が2割台、「ラジオ放送による広報」(14.6%)、「携帯電話へのメール配信」(13.2%)が1割台で続いている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

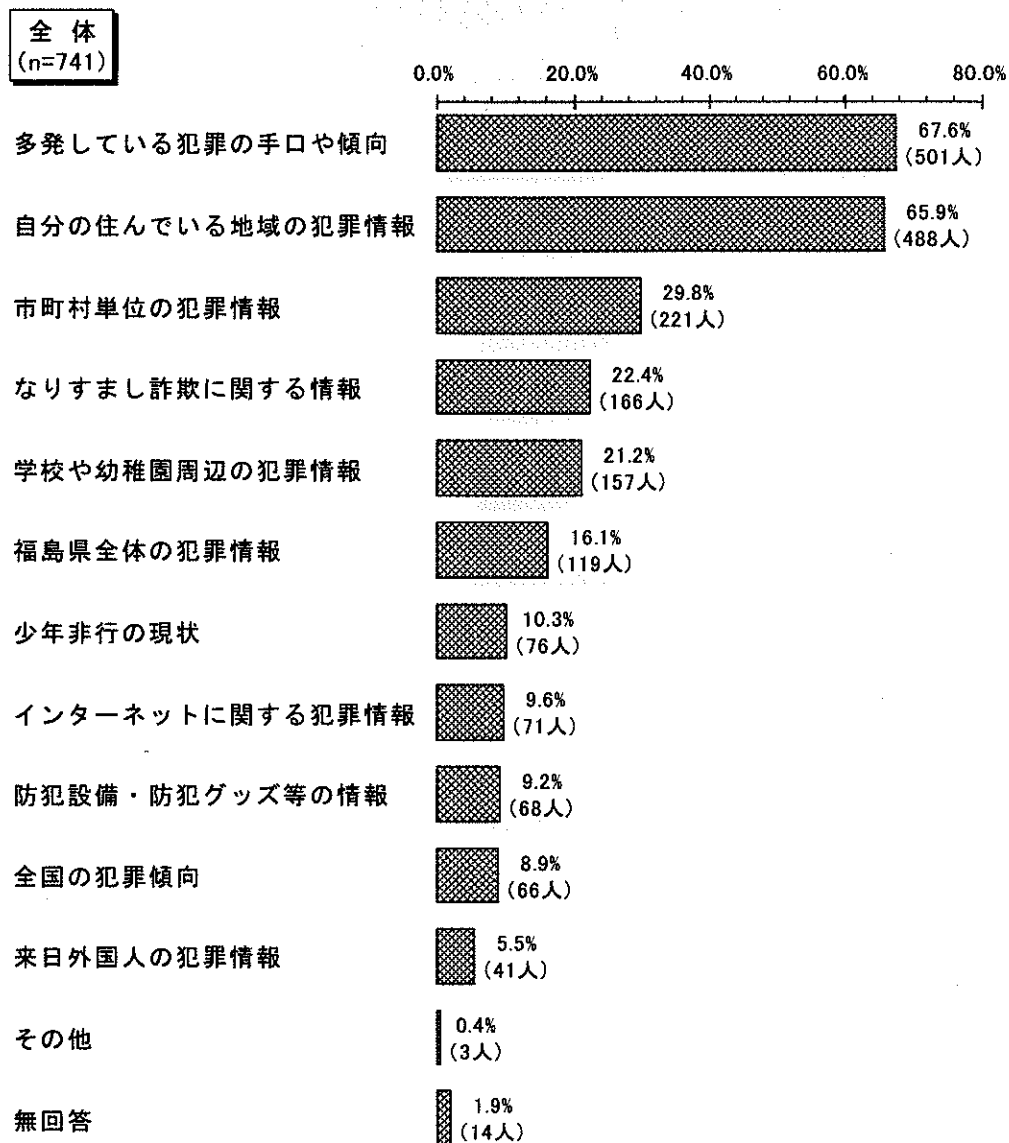


今回調査、平成 23 年度調査ともに回答数の多い順位は同じであるが、ほとんどの項目で平成 23 年度調査よりも割合が低下している。

(5) 犯罪に関して知りたい情報

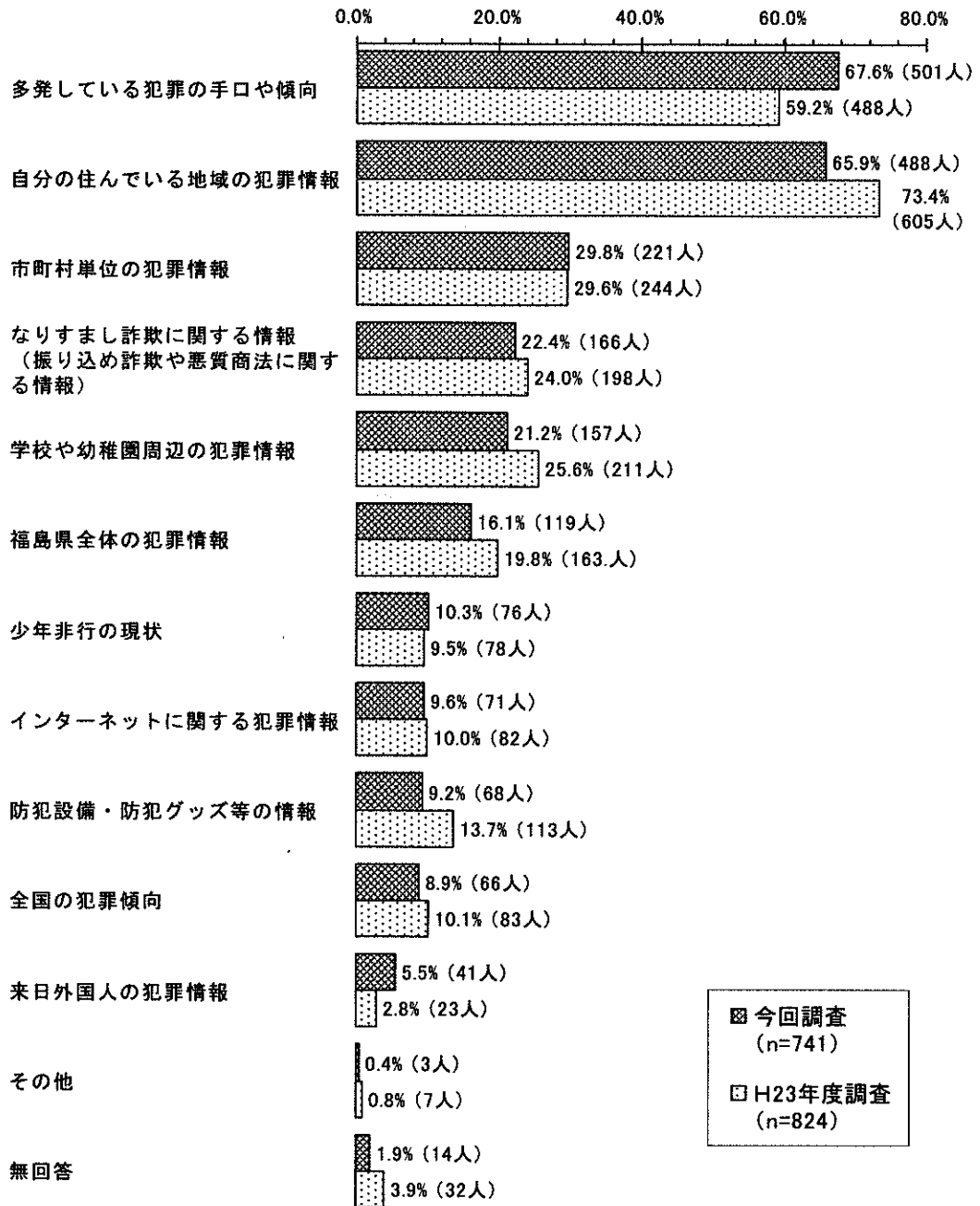
問 24 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



犯罪に関して知りたい情報は、「多発している犯罪の手口や傾向」(67.6%)が最も多く7割弱となっている。次いであまり差がなく、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」(65.9%)が6割台で続いている。以下、「市町村単位の犯罪情報」(29.8%)、「なりすまし詐欺に関する情報」(22.4%)、「学校や幼稚園周辺の犯罪情報」(21.2%)、「福島県全体の犯罪情報」(16.1%)の順となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

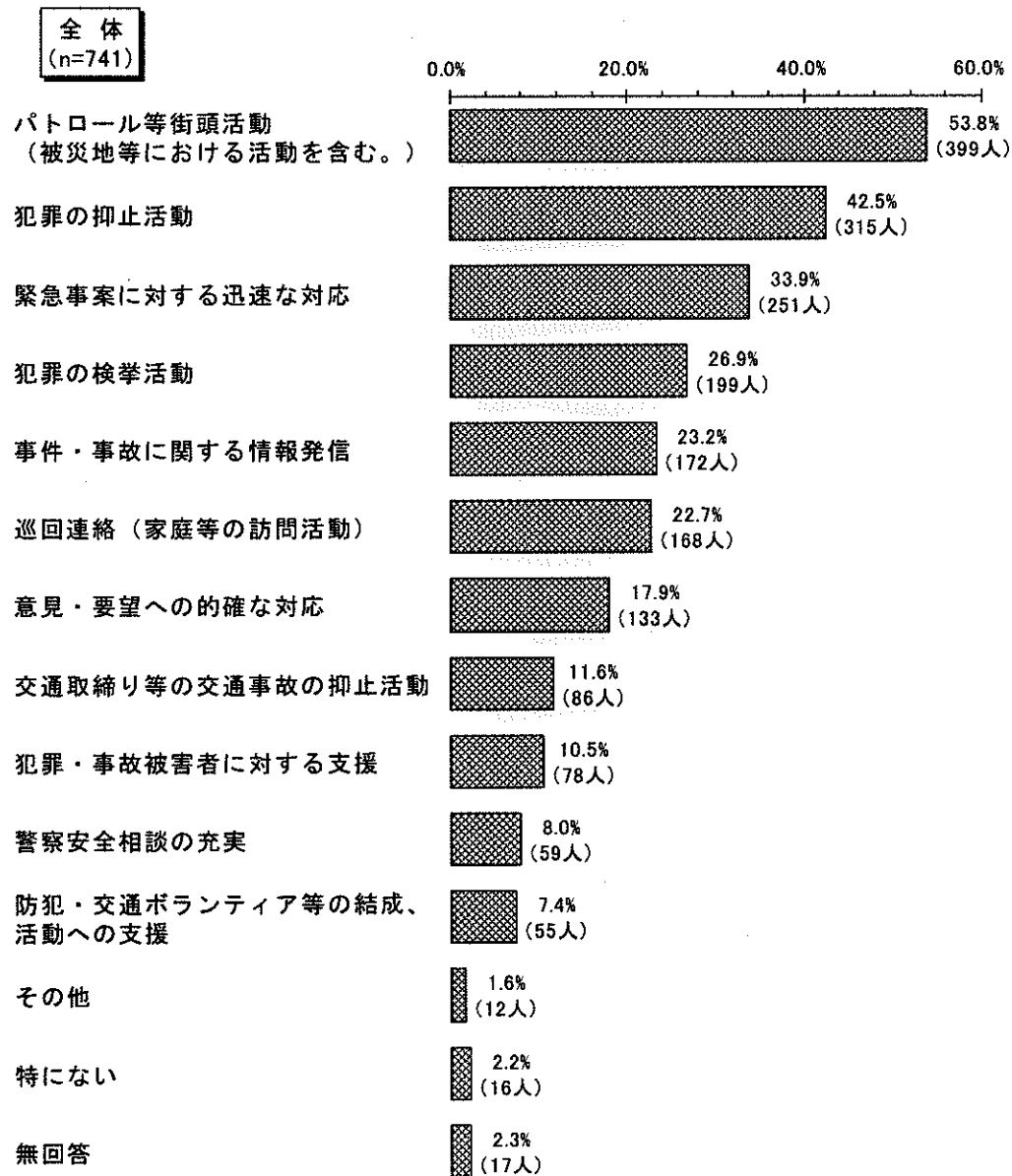


今回調査は平成 23 年度調査に比べて、「多発している犯罪の手口や傾向」の割合が上昇し、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」の割合が低下している。

(6) 警察に強化してほしい活動

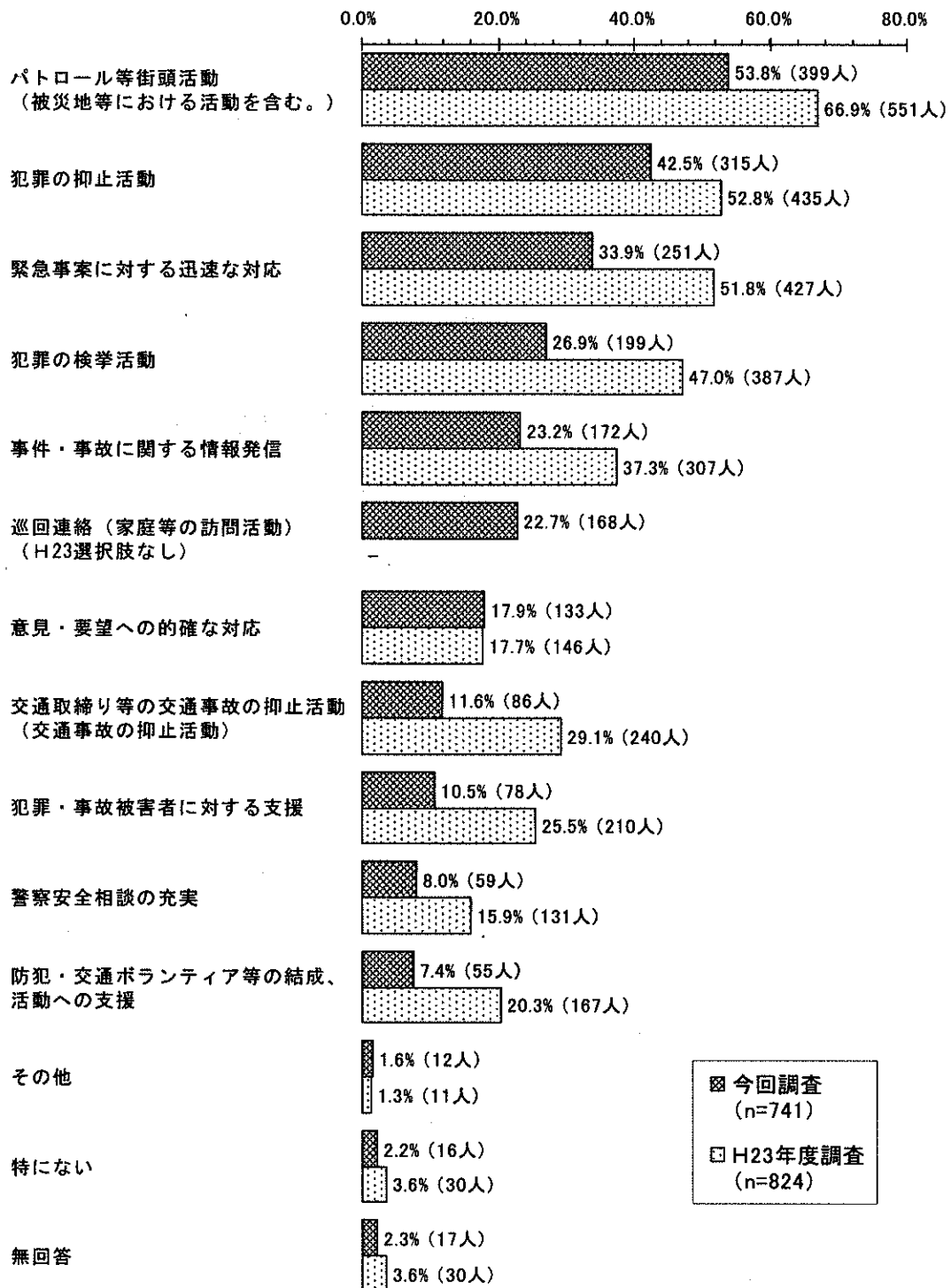
問 25 安全・安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化してほしいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



警察に強化してほしい活動は、「パトロール等街頭活動(被災地等における活動を含む。)」(53.8%)が最も多くなっている。以下、「犯罪の抑止活動」(42.5%)が4割台で続き、「緊急事案に対する迅速な対応」(33.9%)が3割台、「犯罪の検挙活動」(26.9%)、「事件・事故に関する情報発信」(23.2%)、「巡回連絡(家庭等の訪問活動)」(22.7%)が2割台、「意見・要望への的確な対応」(17.9%)、「交通取締り等の交通事故の抑止活動」(11.6%)、「犯罪・事故被害者に対する支援」(10.5%)が1割台となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

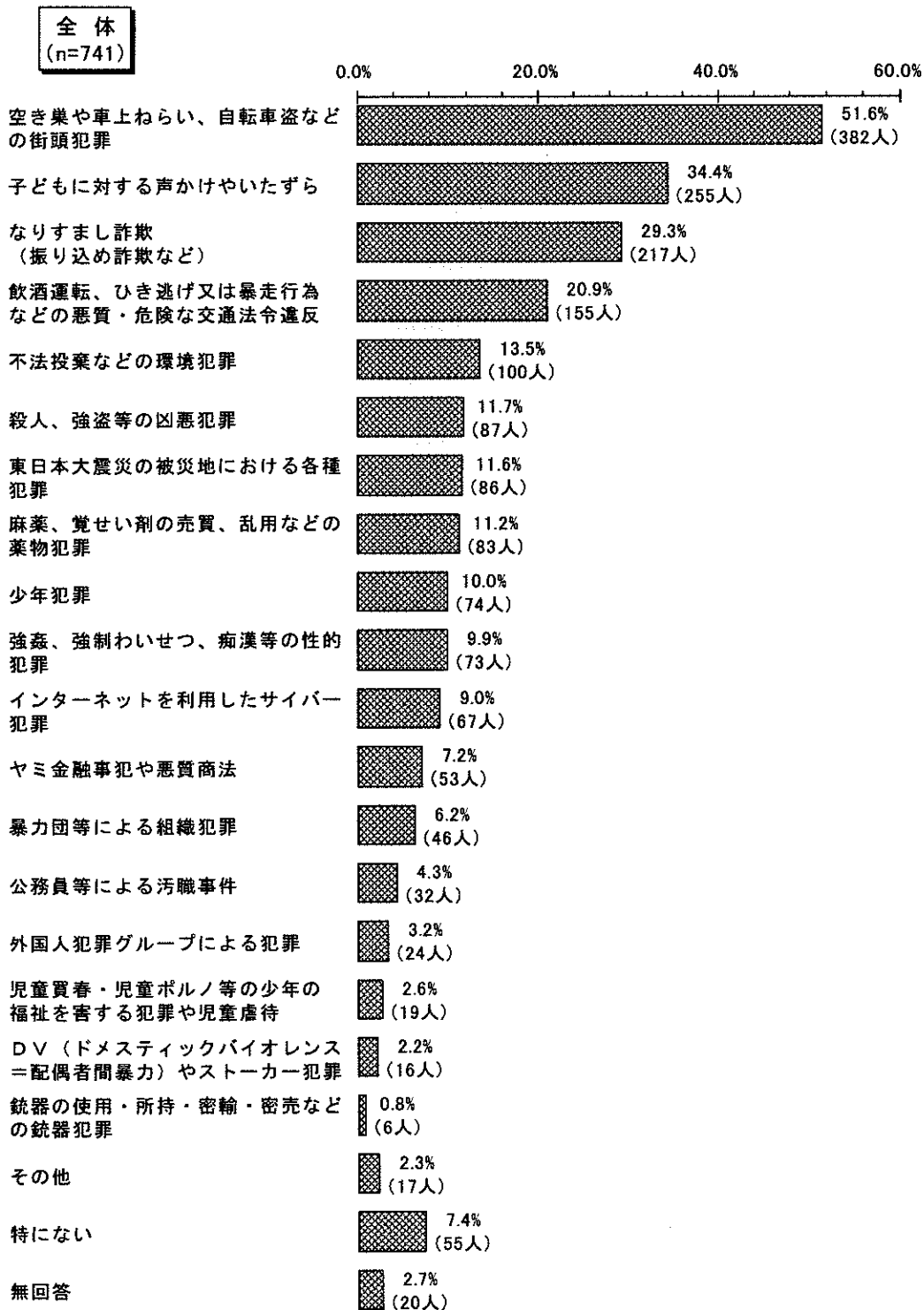


※今回の調査は3つまでの複数回答、平成 23 年度は制限無しの複数回答のため、図のみの掲載に留める。

(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪

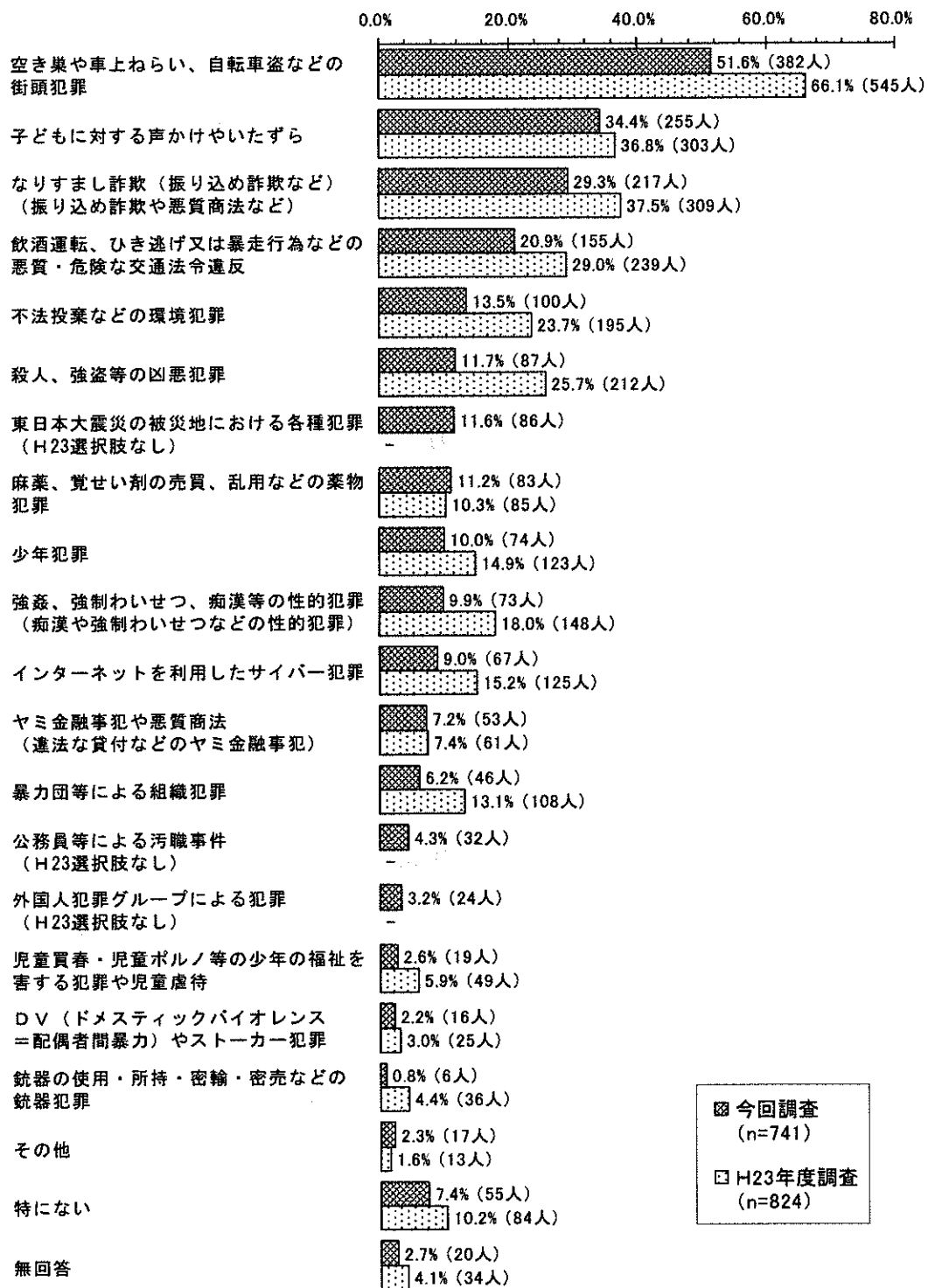
問 26 現在お住まいの地域で最も不安を感じ、今後重点的に取り締まってほしい犯罪は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



今後重点的に取り締まってほしい犯罪は、「空き巣や車上ねらい、自転車盗などの街頭犯罪」(51.6%)が5割強で最も多くなっている。以下、「子どもに対する声かけやいたずら」(34.4%)、「なりすまし詐欺(振り込め詐欺など)」(29.3%)、「飲酒運転、ひき逃げ又は暴走行為などの悪質・危険な交通法令違反」(20.9%)、「不法投棄などの環境犯罪」(13.5%)、「殺人、強盗等の凶悪犯罪」(11.7%)、「東日本大震災の被災地における各種犯罪」(11.6%)、「麻薬、覚せい剤の売買、乱用などの薬物犯罪」(11.2%)が続いている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



※今回調査(重点的に取り締まってほしい犯罪)と平成23年度調査(最も不安に感じる犯罪)では設問が異なるため、図のみの掲載に留める。

7. 安全で安心な県づくりについて

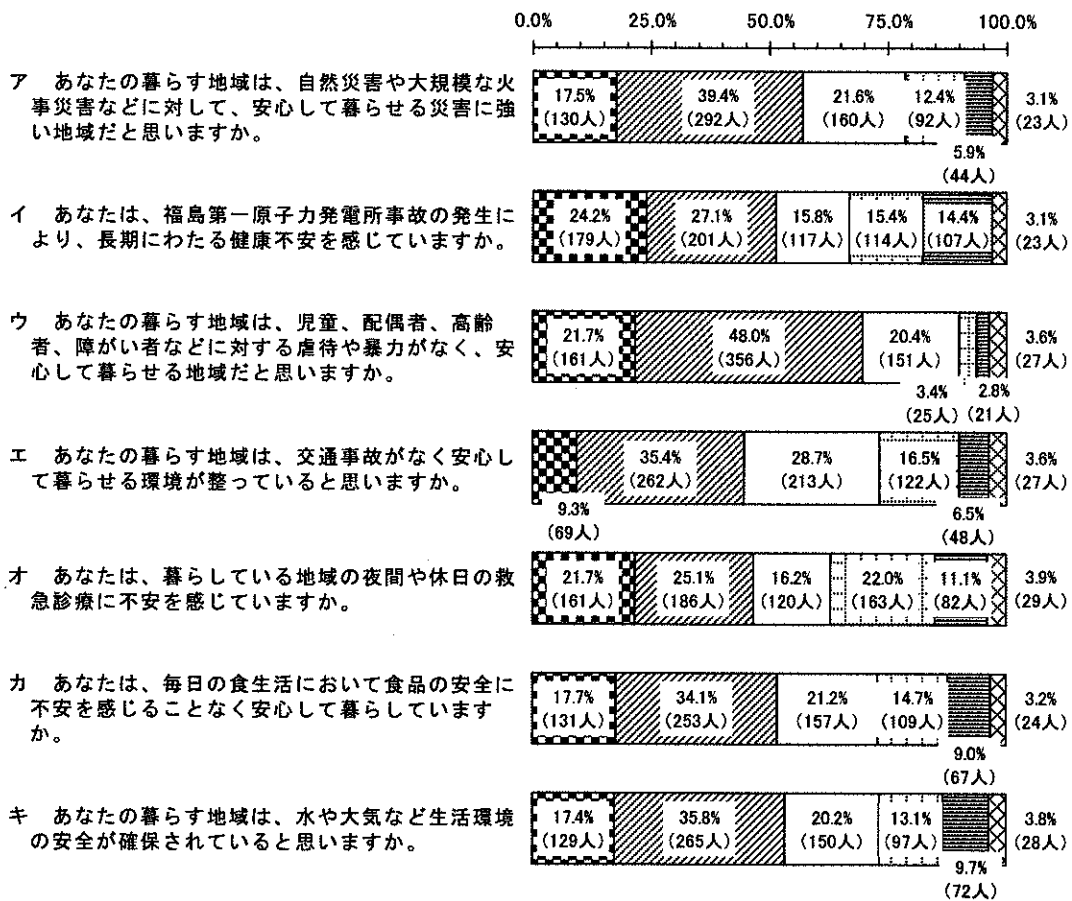
(1) 安全・安心の現状

問27 次にあげた(ア)～(キ)の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。

それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=741)

- はい
 どちらとも言えない・該当しない
 いいえ
 どちらかと言えば「はい」
 どちらかと言えば「いいえ」
 無回答



〈あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉に「はい」(24.2%)と回答した人が最も多くなっている。次いで、〈あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉と〈あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(それぞれ21.7%)が続いている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(69.8%)が最も多く、7割弱となっている。以下、〈あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火事災害などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思いますか。〉(57.0%)が6割弱、〈あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(53.2%)、〈あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(51.8%)、〈あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(51.3%)が5割台、〈あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(46.8%)と〈あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(44.7%)が4割台となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(33.1%)が最も多く、3割強となっている。以下、〈あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(29.8%)、〈あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(23.8%)、〈あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(22.9%)、〈あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(22.8%)が2割台となっている。

8. 県総合計画について

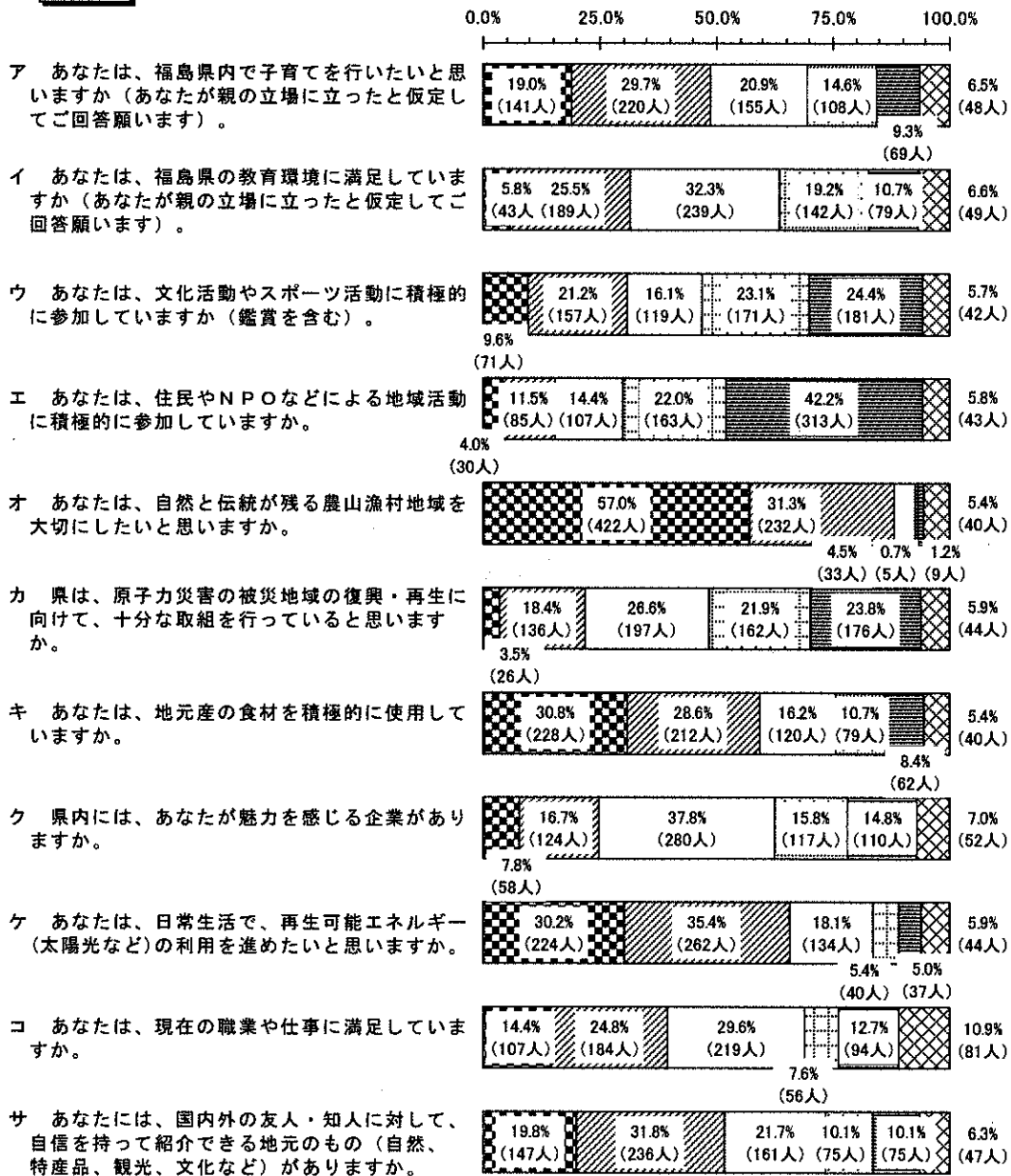
(1) 福島県の現状

問 28 次にあげた (ア) ~ (ニ) の項目について、あなたは現状をどのように感じて
いますか。

それぞれ 1 ~ 5 の中であてはまるもの 1 つに ○ をつけてください。

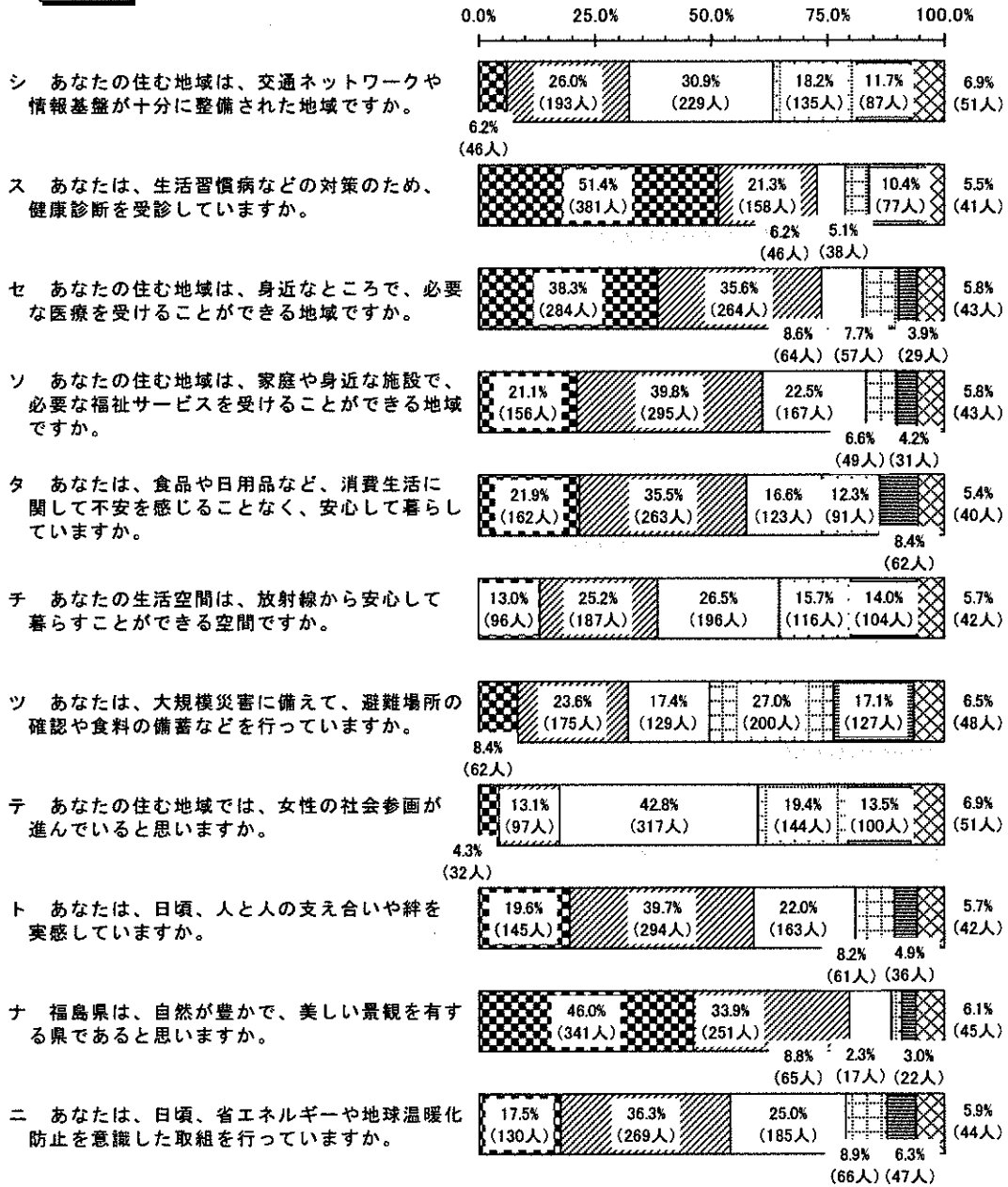
- はい
□ どちらとも言えない・該当しない
目 いいえ
☒ どちらかと言えば「はい」
☒ どちらかと言えば「いいえ」
☒ 無回答

全体
(n=741)



全体
(n=741)

☐ はい
 □ どちらとも言えない・該当しない
 目 いいえ
 ☒ どちらかと言えば「はい」
 ☑ どちらかと言えば「いいえ」
 ☒ 無回答



〈あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いますか。〉(57.0%)に「はい」と回答した人が最も多く、6割弱となっている。次いで、〈あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(51.4%)が5割台で続いている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いますか。〉(88.3%)が最も多く、9割弱となっている。以下、〈福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いますか。〉(79.9%)、〈あなたの住む地域は、身近なところで、必要な医療を受けることができる地域ですか。〉(74.0%)、〈あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(72.7%)が7割台、〈あなたは、日常生活で、再生可能エネルギー(太陽光など)の利用を進めたいと思いますか。〉(65.6%)、〈あなたの住む地域は、家庭や身近な施設で、必要な福祉サービスを受けることができる地域ですか。〉(60.9%)が6割台、〈あなたは、地元産の食材を積極的に使用していますか。〉(59.4%)、〈あなたは、日頃、人と人の支え合いや絆を実感していますか。〉(59.2%)、〈あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。〉(57.4%)、〈あなたは、日頃、省エネルギーや地球温暖化防止を意識した取組を行っていますか。〉(53.8%)、〈あなたには、国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)がありますか。〉(51.7%)が5割台となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。〉(64.2%)が6割強で最も高くなっている。以下、〈あなたは、文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していますか(鑑賞を含む)。〉(47.5%)、〈県は、原子力災害の被災地域の復興・再生に向けて、十分な取組を行っていると思いますか。〉(45.6%)、〈あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。〉(44.1%)が4割台、〈あなたの住む地域では、女性の社会参画が進んでいると思いますか。〉(32.9%)、〈県内には、あなたが魅力を感じる企業がありますか。〉(30.6%)、〈あなたの住む地域は、交通ネットワークや情報基盤が十分に整備された地域ですか。〉(30.0%)が3割台で続いている。

Ⅲ 調査票様式

平成26年度 福島県政世論調査 調 査 票

I 復興に関する情報発信について

福島県では、復興やふくしまからはじまる新しい取組に関する情報を分かりやすくお伝えするため、県民の皆さんにどのように情報が伝わっているかなどをお伺いし、今後の情報発信に役立ててまいります。

問1 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

- 1 食品や農産物の安全性確保についての取り組み・モニタリング情報
- 2 放射線の健康への影響や健康管理に関する情報
- 3 除染の進捗などの状況
- 4 復興へ向けた取り組み
- 5 安心して子育てできる環境づくりへの取り組み
- 6 被災者支援に関する情報
- 7 賠償
- 8 産業（工業、商業、農林水産業など）の復興に関する情報
- 9 特にない
- 10 その他（具体的に)

問2 復興が前に進んでいると感じるのは、どのような情報を得たときですか。あてはまるもの3つまで○をつけてください。また、それらを選んだ理由があれば記入してください。

- 1 避難指示解除など区域の見直しに関する情報
- 2 除染が進んでいることを感じる情報
- 3 文化・スポーツの分野における本県選手の活躍に関する情報
- 4 復興公営住宅の建設・入居に関する情報
- 5 環境創造センターなど新たな拠点施設の整備に関する情報
- 6 本県で開催される全国規模のイベントに関する情報
- 7 子どもたちの笑顔や元気を感じる情報
- 8 道路、海岸など公共土木施設の復旧等に関する情報
- 9 新たなことに挑戦している若者等に関する情報
- 10 観光地等の賑わいに関する情報
- 11 農業や水産業の再開に向けた動きに関する情報
- 12 廃炉に向けた動きに関する情報
- 13 本県を応援している県外の人に関する情報
- 14 特にない
- 15 その他（具体的に)

上記の理由等

問3 本県の復興の状況に関する情報については主に何で入手していますか。
 あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

- | | |
|----|------------------------------------|
| 1 | 新聞 |
| 2 | テレビ・ラジオのニュースなど |
| 3 | インターネット (行政以外のページ) |
| 4 | インターネット (県のホームページ、フェイスブック、ツイッターなど) |
| 5 | 県の広報 (広報誌・テレビ・ラジオなど) |
| 6 | 市町村の広報 (広報誌・テレビ・ラジオ、ホームページなど) |
| 7 | 国の広報 (テレビ・ラジオ・印刷物、ホームページなど) |
| 8 | 行政以外の印刷物 |
| 9 | 口コミ |
| 10 | その他 (具体的に) |

問4 あなたは、県の広報活動に満足していますか。

(ア)～(キ)についてそれぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

			満足している	どちらかといえは満足している	どちらかといえは満足していない	満足していない	見たことがないのでわからない
(ア)	広報誌	ふくしまから はじめよう。ゆめだより	1	2	3	4	5
(イ)	新聞	県政特集 (福島民報・福島民友)	1	2	3	4	5
(ウ)	テレビ	キビタン G0 (福島テレビ: 毎週火曜日 21:54～22:00)	1	2	3	4	5
(エ)	テレビ	新生ふくしま (福島中央テレビ: 毎週日曜日 13:00～13:05)	1	2	3	4	5
(オ)	インターネット	県ホームページ	1	2	3	4	5
(カ)	インターネット	Facebook (フェイスブック) 「ふくしまからはじめよう。」	1	2	3	4	5
(キ)	インターネット	YouTube (ユーチューブ) 「県公式チャンネル」	1	2	3	4	5

問5 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。また、それらを選んだ理由があれば記入してください。

- 1 震災の被害の状況
- 2 復興に向けてがんばる県民の姿、前向きな取り組み
- 3 震災後の応援に対する感謝の気持ち
- 4 再生可能エネルギーの導入推進などの先進的な取り組み
- 5 被災者の生活状況、被災者の声
- 6 除染の進捗状況
- 7 県内観光地等の放射線のモニタリング情報
- 8 観光情報、来県の呼びかけ
- 9 県内外で開催される本県関係のイベント情報
- 10 農産物や県産品の安全性について
- 11 特になし（理由： _____）
- 12 その他（具体的に _____）

上記の理由等

II 心の健康について

県民一人ひとりが心の健康に関心をもつこと、そして、悩みを気軽に相談できることが、心の健康をより良く保つために、必要であると考えています。

県民の皆さまから「心の健康」についてお伺いし、今後の各種施策に役立ててまいります。

問6 あなたは心の健康について関心がありますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 大変関心がある
- 2 ある程度関心がある
- 3 あまり関心がない
- 4 まったく関心がない
- 5 わからない

問7 ふだん、気分が落ち込む、あるいは精神的に疲れていると感じることがありますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 頻繁に感じている
 - 2 ときどき感じている
 - 3 あまり感じない
 - 4 まったく感じない
 - 5 わからない
- } (問7-1~)

(問7で、「1 頻繁に感じている」、または「2 ときどき感じている」とお答えの方にお尋ねします。)

問7-1 主にどのようなことが心の負担になりますか。

あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。(複数回答可)

- 1 自分の健康のこと
- 2 家族の健康のこと (病気・介護)
- 3 経済的なこと (家計やローンなど)
- 4 仕事のこと (仕事がうまくできるか、自分にあった仕事かなど)
- 5 仕事がないこと
- 6 学校のこと (学業について、進路についてなど)
- 7 将来の生活のこと
- 8 親との関係 (接し方、かかわり方など)
- 9 子どもとの関係 (接し方、かかわり方など)
- 10 配偶者との関係 (接し方、かかわり方など)
- 11 その他の家族、親戚との関係 (つきあい方、かかわり方など)
- 12 友達づきあいのこと
- 13 近所づきあいなど
- 14 職場や学校での対人関係
- 15 その他 (具体的に: _____)
- 16 わからない

問8 心の健康について心配なことがある時、あなたは誰に相談しますか。

あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。(複数回答可)

- 1 家族や親戚
- 2 友人
- 3 職場の同僚
- 4 職場の上司
- 5 学校の先生やスクールカウンセラーなど
- 6 地域の有識者
- 7 相談機関等の専門家
- 8 その他 (具体的に: _____)
- 9 誰にも相談しない
- 10 わからない

問9 心の健康について相談するため、どのような相談機関を利用したことがありますか。

あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。(複数回答可)

- 1 行政機関の相談窓口 (精神保健福祉センターや保健所など)
- 2 精神科や心療内科などの医療機関
- 3 カウンセリングなどを行う専門的民間機関
- 4 その他 (具体的に: _____)
- 5 相談したいが利用したことがない
- 6 相談する必要がないので利用したことがない

Ⅲ 食育について

福島県では平成22年3月に「第二次福島県食育推進計画」を策定し、「食を通してふくしまの未来を担う人を育てる」を目標に、県民運動として推進しています。

今年度、新たに平成27年度からの第三次計画を策定するにあたって、県民の皆さまの御意見をお伺いし、今後の食育の推進施策に役立ててまいります。

問10 あなたは、「毎年6月は『食育月間』、毎月19日は『食育の日』」であることを知っていますか。

あてはまるものに1つに○をつけてください。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 知っている2 名称は知っているが、月日までは知らなかった3 知らない |
|--|

問11 県では、福島県と食育活動を行う企業が連携し、県民運動として食育の推進を図るため、「福島県食育応援企業団」を設置しています。

あなたは、その名称を知っていますか。また、その活動に参加したことがありますか。

あてはまるものに1つに○をつけてください。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 名称を知っており、活動に参加したことがある2 名称は知っているが、活動に参加したことはない3 名称は知らなかったが、機会があれば参加したい4 名称も知らないし、関心もない |
|--|

問12 県では、福島県と地域の食育活動を支援するため、食育体験や交流、食生活改善、地域の食文化や郷土食の伝承等の活動を実践する方々を「ふくしま食育実践サポーター」として登録し、学校や地域団体の要請に応じて派遣しています。

あなたは、その名称を知っていますか。また、その活動に参加したことがありますか。

あてはまるものに1つに○をつけてください。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 名称を知っており、活動に参加したことがある2 名称は知っているが、活動に参加したことはない3 名称は知らなかったが、機会があれば参加したい4 名称も知らないし、関心もない |
|--|

問13 朝食または夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 ほとんど毎日食べる
- 2 週に4～5日
- 3 週に2～3日
- 4 週に1日程度
- 5 ほとんどない

問14 あなたは、日ごろから健全な食生活を行うために「食育」に関する活動や行動を実践していますか。

あてはまるものいくつでも○をつけてください。（複数回答可）

- 1 朝食を必ず食べる
- 2 栄養バランスのとれた食生活
- 3 より安全な食品の購入
- 4 食料自給状況に関する理解の向上
- 5 農業生産・加工活動への参加
- 6 食生活の改善に関する勉強会への参加
- 7 地域の伝統料理教室への参加
- 8 食に関する伝統行事への参加
- 9 食に関わるボランティア活動への参加
- 10 特にしていない
- 11 わからない

問15 あなたは、健康に配慮した食環境を整備するために、飲食店等で実施して欲しいと思う健康サービスは何ですか。

あてはまるものいくつでも○をつけてください。（複数回答可）

- 1 献立のエネルギーや塩分等の栄養成分の表示
- 2 ヘルシーメニューの提供
- 3 禁煙又は分煙
- 4 栄養・健康情報の提供
- 5 その他（)

IV 農林水産業について

震災後の本県農林水産物や農山漁村に対する県民の皆さんの意識をお伺いし、今後の農林水産業の振興のための効果的な施策に役立ててまいります。

問 16 震災後、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

- 1 国産の食材を積極的に購入する
- 2 県産の食材を積極的に購入する
- 3 放射性物質の検査結果がわかるもののみ購入する
- 4 ごはんを中心とした日本型食生活の実践
- 5 米を原料とするパンや麺など米粉製品を積極的に利用する
- 6 食べ残しを減らすなど食品の廃棄を減らす
- 7 その他(具体的に:)

問 17 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

- 1 農山漁村の中で、地域の人々が働き、生活する場
- 2 食料を生産する場
- 3 多種多様な生物が生息できる環境としての役割
- 4 農林漁業の作業体験等を通じた教育の場
- 5 水資源のかん養や土砂崩れ・洪水などを防止する役割
- 6 伝統文化を保存・承継する役割
- 7 農山漁村の景観による癒し、レクリエーションの場
- 8 滞在型体験農園などの活用による二地域居住
- 9 その他(具体的に:)

V 廃棄物対策について

福島県では、「福島県廃棄物処理計画」を策定し、廃棄物の減量化や適正処理を推進するための施策に取り組んでいます。

今年度、新たに平成27年度から平成32年度の計画を策定するにあたって、廃棄物に関する県民の皆さまの御意見をお伺いします。

なお、ここで単に「廃棄物」という場合は、家庭ごみ・産業廃棄物の両方を含みます。

問18 本県では、家庭ごみなどの一般廃棄物について、リサイクル率（排出量に占めるリサイクル量の割合）の平成26年度における目標値を24.5%としていますが、平成20～24年度の5年間の実績値が15.5～13.7%と、目標値と比較してかなり低くなっています。

あなたは、リサイクル率を向上させるための行政の取組として必要なことは何だと思いませんか。あてはまるもの**3つまで○**をつけてください。

- | | |
|----|---|
| 1 | ごみステーションにおける資源ごみの種類ごとのボックスの設置など、分別しやすい環境を整備する |
| 2 | 資源ごみの回収を促進するため、資源ごみの回収日を増やす |
| 3 | ごみの量を減らすため、資源ごみ以外のごみの処理を有料化する |
| 4 | 町内会などに対して、資源ごみの集団回収活動を促進するための支援をする |
| 5 | リサイクル業者に対して、育成のための支援をする |
| 6 | 製造メーカーや販売店などに対して、リサイクルしやすい製品の製造・販売の促進を働きかける |
| 7 | 製造メーカーや販売店などに対して、使用済み製品の回収の促進を働きかける |
| 8 | 県民のリサイクル意識を向上させるため、教育、啓発、情報提供をする |
| 9 | その他（ ） |
| 10 | わからない |

問19 現在、県では、県内の最終処分場に搬入される県外の産業廃棄物の割合を、県内の最終処分量全体の20%以下とすることを目標としています。

（法律で禁止や規制をしているわけではありません。）

あなたは、今後、県外の産業廃棄物の受け入れについて、どのように考えますか。あてはまるもの**1つに○**をつけてください。

- | | |
|---|--|
| 1 | 法律で禁止や規制がなされていないなら、事業者の判断に任せればよい |
| 2 | ある程度ならば受け入れてもよい |
| 3 | 受け入れることには一定の搬入抑制が必要である |
| 4 | 一切受け入れるべきではない |
| 5 | わからない |
| 6 | その他（具体的に： ） |

問20 お住まいの近くに廃棄物処理施設の設置が計画された場合、どのように考えますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 心配のない施設ならば、設置してもかまわない
- 2 多少心配でも社会生活に必要な施設なので、設置はやむを得ない
- 3 心配のない施設であっても、廃棄物処理施設なら反対する
- 4 生活環境への影響が心配なので、反対する
- 5 その他（具体的に： _____ ）
- 6 わからない

問21 福島県の廃棄物対策に対して特に力を入れてほしいと思うことはどのようなこと
ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

- 1 優良な廃棄物処理業者の支援や育成
- 2 廃棄物の量を減らし、再生利用を進めるための技術開発研究の促進
- 3 廃棄物を適正に処理するための、排出者や廃棄物処理業者の監視や指導
- 4 廃棄物処理施設を設置する際の適切な指導
- 5 家庭ごみ焼却施設を、各ブロック（県北、県中、県南、会津・南会津、相馬、双葉、いわき）で1か所にまとめることによる効率化
- 6 不法投棄や野焼きなどの防止や厳しい取締り
- 7 廃棄物処理施設から発生する有害物質等を減らすための取組
- 8 廃棄物に対する県民の理解と知識を深めるための啓発活動
- 9 放射性物質に汚染された廃棄物の処理を推進するための取組
- 10 その他（具体的に： _____ ）
- 11 特にない

VI 地域社会の安全・安心（治安）について

震災後、治安情勢の変化により、県民の皆さんが抱えている安全・安心に関する意識や要望などを調査し、犯罪抑止対策や検挙活動等の効率的な推進に役立ててまいります。

問22 現在あなたが住んでいる地域(仮設住宅・借り上げ住宅も含む)の治安は良いと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 良い → (問22-1へ)
- 2 悪い → (問22-2へ)
- 3 変わらない
- 4 わからない

(問22で、「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

問22-1 良いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

- 1 犯罪の被害に遭った人が身近にいない
- 2 町内会の人や巡回や防犯ボランティアの姿を良く見かける
- 3 パトカーや警察官の姿を良く見かける
- 4 隣近所とのコミュニケーションが図られている
- 5 犯罪発生ニュース等を聞かなくなった
- 6 地域住民の防犯意識が高まった
- 7 その他 ()

(問22で、「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

問22-2 悪いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

- 1 犯罪の被害に遭った人が身近にいる
- 2 町内会の人や巡回や防犯ボランティアの姿を見かけない
- 3 パトカーや警察官の姿を見かけない
- 4 隣近所とのコミュニケーションが図られていない
- 5 犯罪発生ニュース等をよく聞くようになった
- 6 地域住民の防犯意識が希薄になった
- 7 その他 ()

(全員にお尋ねします。)

問23 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、どのような形で提供されるのがよいと思いますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 各種防犯研修会の開催 | 6 ラジオ放送による広報 |
| 2 警察官の訪問による具体的な助言活動 | 7 新聞の定期的な掲載 |
| 3 防犯広報紙の配布 | 8 携帯端末等へのメール配信 |
| 4 県警察ホームページへの掲載 | 9 その他(具体的に) |
| 5 テレビ放映による広報 | 10 わからない |

問24 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 自分の住んでいる地域の犯罪情報 | 7 多発している犯罪の手口や傾向 |
| 2 市町村単位の犯罪情報 | 8 なりすまし詐欺に関する情報 |
| 3 福島県全体の犯罪情報 | 9 来日外国人の犯罪情報 |
| 4 全国の犯罪傾向 | 10 インターネットに関する犯罪情報 |
| 5 学校や幼稚園周辺の犯罪情報 | 11 防犯設備・防犯グッズ等の情報 |
| 6 少年非行の現状 | 12 その他() |

問25 安全・安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化してほしいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

- | |
|------------------------------|
| 1 犯罪の検挙活動 |
| 2 犯罪の抑止活動 |
| 3 パトロール等街頭活動(被災地等における活動を含む。) |
| 4 巡回連絡(家庭等の訪問活動) |
| 5 緊急事案に対する迅速な対応 |
| 6 交通取締り等の交通事故の抑止活動 |
| 7 犯罪・事故被害者に対する支援 |
| 8 事件・事故に関する情報発信 |
| 9 警察安全相談の充実 |
| 10 意見・要望への的確な対応 |
| 11 防犯・交通ボランティア等の結成、活動への支援 |
| 12 その他() |
| 13 特にない |

問 26 現在お住まいの地域で最も不安を感じ、今後重点的に取り締まってほしい犯罪は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

- 1 殺人、強盗等の凶悪犯罪
- 2 空き巣や車上ねらい、自転車盗などの街頭犯罪
- 3 子どもに対する声かけやいたずら
- 4 強姦、強制わいせつ、痴漢等の性的犯罪
- 5 なりすまし詐欺（振り込め詐欺など）
- 6 少年犯罪
- 7 児童買春・児童ポルノ等の少年の福祉を害する犯罪や児童虐待
- 8 DV（ドメスティックバイオレンス＝配偶者間暴力）やストーカー犯罪
- 9 ヤミ金融事犯や悪質商法
- 10 インターネットを利用したサイバー犯罪
- 11 飲酒運転、ひき逃げ又は暴走行為などの悪質・危険な交通法令違反
- 12 暴力団等による組織犯罪
- 13 外国人犯罪グループによる犯罪
- 14 公務員等による汚職事件
- 15 麻薬、覚せい剤の売買、乱用などの薬物犯罪
- 16 不法投棄などの環境犯罪
- 17 銃器の使用・所持・密輸・密売などの銃器犯罪
- 18 東日本大震災の被災地における各種犯罪
- 19 その他()
- 20 特にない

VII 安全で安心な県づくりについて

福島県では、「福島県安全で安心な県づくりの推進に関する条例」に基づき、真に安心できる暮らしの実現に向けて各種施策を行うこととしています。県民の皆様は「安心」をどのように実感しているのかについてお伺いし、今後の安全安心に関わる各種施策に役立ててまいります。

問27 次にあげた（ア）～（キ）の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

	はい	「はい」 どちらかと言え	どちらとも言えない ・該当しない	「いいえ」 どちらかと言え	いいえ
ア あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火事災害などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思いますか。	1	2	3	4	5
イ あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。	1	2	3	4	5
ウ あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。	1	2	3	4	5
エ あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。	1	2	3	4	5
オ あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。	1	2	3	4	5
カ あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。	1	2	3	4	5
キ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。	1	2	3	4	5

- ※ 平成23年3月11日に発生した東日本大震災及びそれに伴う福島第一原子力発電所事故に伴い避難されている方につきましては、「あなたの暮らす地域」について、以下により回答してください。
- ・福島県内に避難されている方 → 現在お住まいの地域の状況を回答してください。
 - ・福島県外に避難されている方 → 避難する前に住んでいた地域の状況を回答してください。

VII 県総合計画について

福島県では、30年後の未来を展望して策定した総合計画「ふくしま新生プラン」に基づき、基本目標「夢・希望・笑顔に満ちた“新生ふくしま”」の実現に向け取り組んでいます。

計画の取組に関連した以下の項目について、県民の皆さんの考えをお聞きし、総合計画の評価・検討に活用してまいります。

問28 次にあげた（ア）～（コ）の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。それぞれ1～5の中であてはまるもの**1つに○**をつけてください。

	はい	どちらかと言えば「はい」	どちらとも言えない・該当しない	どちらかと言えば「いいえ」	いいえ
ア あなたは、福島県内で子育てを行いたいと思いますか（あなたが親の立場に立ったと仮定してご回答願います）。	1	2	3	4	5
イ あなたは、福島県の教育環境に満足していますか（あなたが親の立場に立ったと仮定してご回答願います）。	1	2	3	4	5
ウ あなたは、文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していますか（鑑賞を含む）。	1	2	3	4	5
エ あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。	1	2	3	4	5
オ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いませんか。	1	2	3	4	5
カ 県は、原子力災害の被災地域の復興・再生に向けて、十分な取組を行っていると思いませんか。	1	2	3	4	5
キ あなたは、地元産の食材を積極的に使用していますか。	1	2	3	4	5
ク 県内には、あなたが魅力を感じる企業がありますか。	1	2	3	4	5
ケ あなたは、日常生活で、再生可能エネルギー（太陽光など）の利用を進めたいと思いませんか。	1	2	3	4	5
コ あなたは、現在の職業や仕事に満足していますか。	1	2	3	4	5

	はい	どちらかと言えば「はい」	どちらとも言えない・該当しない	どちらかと言えば「いいえ」	いいえ
サ あなたは、国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの（自然、特産品、観光、文化など）がありますか。	1	2	3	4	5
シ あなたの住む地域は、交通ネットワークや情報基盤が十分に整備された地域ですか。	1	2	3	4	5
ス あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。	1	2	3	4	5
セ あなたの住む地域は、身近なところで、必要な医療を受けることができる地域ですか。	1	2	3	4	5
ソ あなたの住む地域は、家庭や身近な施設で、必要な福祉サービスを受けることができる地域ですか。	1	2	3	4	5
タ あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。	1	2	3	4	5
チ あなたの生活空間は、放射線から安心して暮らすことができる空間ですか。	1	2	3	4	5
ツ あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。	1	2	3	4	5
テ あなたの住む地域では、女性の社会参画が進んでいると思いますか。	1	2	3	4	5
ト あなたは、日頃、人と人の支え合いや絆を実感していますか。	1	2	3	4	5
ナ 福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いますか。	1	2	3	4	5
ニ あなたは、日頃、省エネルギーや地球温暖化防止を意識した取組を行っていますか。	1	2	3	4	5

- ◆ このページの質問は、アンケートにお答えいただいた内容を統計的に分析するために
お尋ねするものです。最後までご協力をお願いします。

あなたご自身についてお答えください。

F 1 あなたの性別をお知らせください。

1 男	2 女
-----	-----

F 2 あなたの満年齢をお知らせください。（平成26年8月1日現在）

1 15～19歳	5 35～39歳	9 55～59歳
2 20～24歳	6 40～44歳	10 60～64歳
3 25～29歳	7 45～49歳	11 65～69歳
4 30～34歳	8 50～54歳	12 70歳以上

F 3 あなたの現在のご職業は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
(複数の職業をお持ちの方は、主とするもの1つに○をつけてください)

1 農・林・漁業（農業・林業・漁業の自営者、家族従業者）
2 商・工・サービス業（小売店・飲食店・理髪店などの自営者、家族従業者）
3 自由業（開業医・弁護士・芸術家・茶華道の師匠などの自営者、家族従業者）
4 管理職（民間会社・官公庁の課長級以上）
5 事務職・専門技術職（事務職員・教員・技術者など）
6 技能職・労務職（技能工・販売店員・外交員など）
7 パートタイマー・アルバイト・フリーター・嘱託など
8 専業主婦・主夫
9 学生・生徒
10 その他（具体的に： _____)
11 無職

F 4 あなたがお住まいの市町村名をご記入ください。

（震災の影響により現在避難している方は、避難する前の市町村名）

（市・町・村）

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒をお使いのうえ、
8月29日（金）までに、切手を貼らずに郵便ポストに投函して
ください。

IV 過去に実施した県政世論調査項目一覧

平成25年度（8項目33問） 標本数 1,300 回収率 61.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 救急医療について
- (4) 農林水産業について
- (5) 生物多様性について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成24年度（9項目33問） 標本数 1,300 回収率 60.7%

- (1) 環境について
- (2) 水に関する意識について
- (3) 子育て支援策について
- (4) 青少年の健全育成について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) ジェネリック医薬品（後発医薬品）について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成23年度（7項目24問） 標本数 1,300 回収率 63.4%

- (1) 震災時及び現在における情報収集について
- (2) 男女共同参画の視点からの災害対応について
- (3) 心の健康について
- (4) 震災後の商業環境について
- (5) 芸術文化・スポーツ活動について
- (6) 震災後の県内の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて

平成22年度（8項目30問） 標本数 1,300 回収率 60.8%

- (1) 福島県農林水産物の消費拡大について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 生活習慣病予防対策について
- (4) 水について
- (5) 生物多様性について
- (6) 廃棄物対策について
- (7) 福島県総合計画について
- (8) 安全で安心な県づくりについて

平成21年度（7項目30問） 標本数1,300 回収率65.1%

- (1) 福島県の農業・農村の振興について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 食育について
- (4) 環境について
- (5) 青少年の健全育成について
- (6) 土地利用について
- (7) 福島県の新しい総合計画について

平成20年度（5項目28問） 標本数1,300 回収率64.2%

- (1) 安心・安全な県産農産物の生産拡大について
- (2) 地域社会の安全、安心について
- (3) 保健福祉関連事業について
- (4) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について
- (5) ユニバーサルデザインについて

平成19年度（5項目23問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 「ふくしま食と農の絆づくり運動」について
- (2) 警察活動について
- (3) 「がん」に関する意識について
- (4) 県庁の組織名及び職名について
- (5) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成18年度（6項目21問） 標本数1,300 回収率58.5%

- (1) 犯罪に関する意識について
- (2) 化学物質について
- (3) 有機農産物に対する認知度と消費動向について
- (4) 食育について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成17年度（6項目24問） 標本数1,300 回収率59.3%

- (1) 森林と県民生活について
- (2) 水について
- (3) 電子社会の推進と現状について
- (4) 運動・スポーツに関する実態について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成16年度（5項目27問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 安全に安心して暮らせる地域社会について
- (2) 地域温暖化防止のためのエコライフについて
- (3) 心の健康について
- (4) 文化に関する意識について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について

平成15年度（5項目34問） 標本数1,300 回収率62.2%

- (1) お米の消費実態と福島米への要望について
- (2) 交通安全教育について
- (3) 環境保全への取り組みについて
- (4) エネルギー政策について
- (5) 県政への要望について

平成14年度（4項目30問） 標本数1,000 回収率60.5%

- (1) 地産地消について
- (2) IT革命の現状と課題について
- (3) ボランティア活動について
- (4) 食品の安全確保について

平成13年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率58.0%

- (1) ユニバーサルデザインについて
- (2) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (3) 環境保全について
- (4) 県民生活と森林づくり運動について
- (5) 新エネルギーについて
- (6) 人権問題について

平成12年度（4項目31問） 標本数1,000 回収率62.2%

- (1) 行政情報化について
- (2) 魅力ある観光地づくりについて
- (3) うつくしま未来博について
- (4) 運動・スポーツについて

平成11年度（6項目34問） 標本数1,000 回収率64.4%

- (1) 福島県の教育について
- (2) 高齢社会について
- (3) 住民参加について
- (4) 行財政改革について
- (5) 土地利用について
- (6) 県への要望について

平成10年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率66.9%

- (1) 子育てについて
- (2) 生涯学習について
- (3) 安全な生活について
- (4) 魅力ある観光地づくりについて
- (5) 地方分権について
- (6) 県への要望について

平成 26 年度

県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

平成 26 年 11 月発行

福島県 知事直轄 県民広聴室

〒 960-8670 福島市杉妻町 2 番 16 号

電話 (024) 521-7013

